

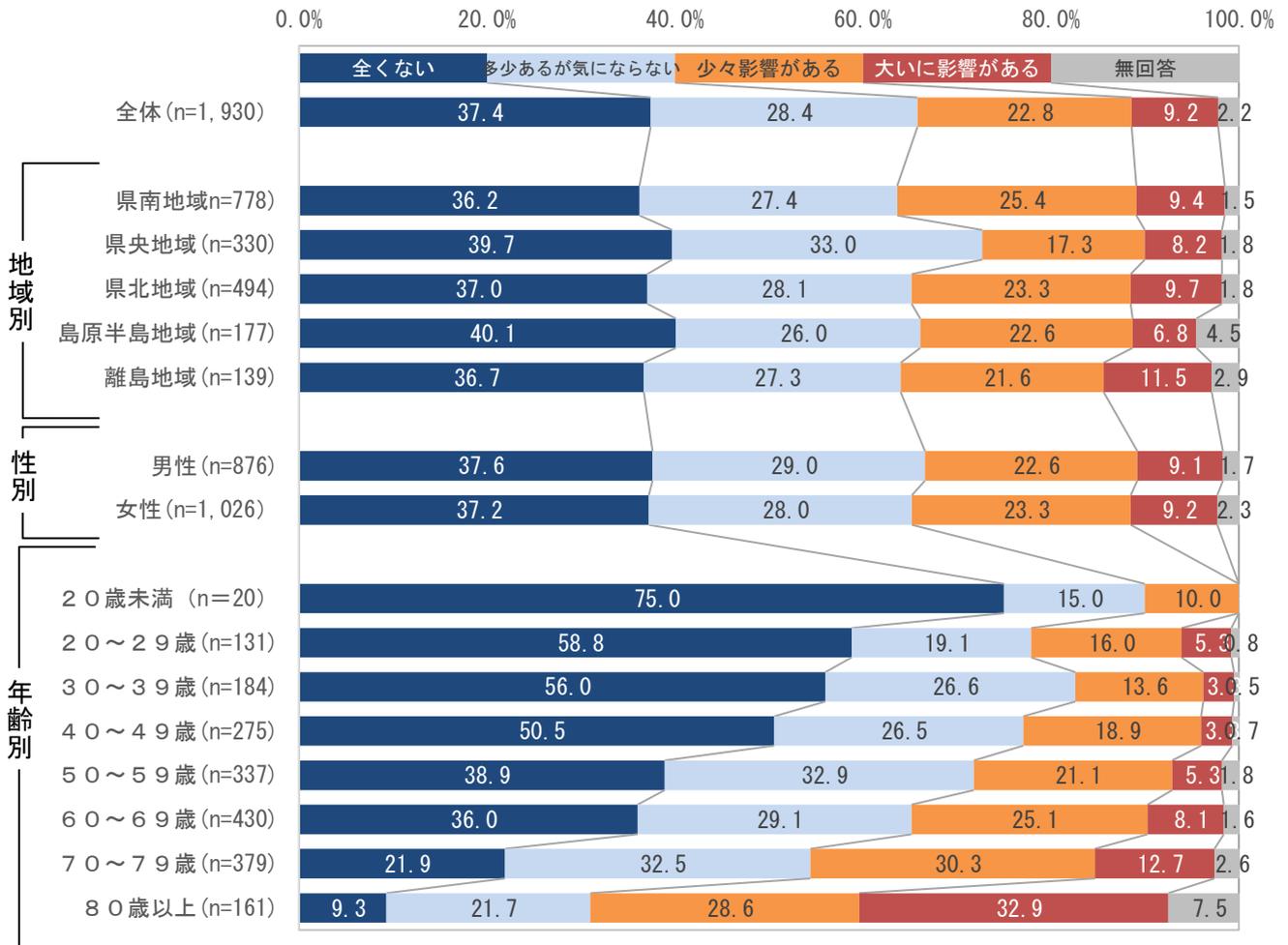
【健康づくりについて】

問19

あなたは、現在、健康上の理由で日常生活に何らかの影響がありますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「全くない」が約4割でトップ



【全体】

日常生活への影響は「全くない」が37.4%で最も多く、次いで「多少あるが気にならない」が28.4%、「少々影響がある」が22.8%と続いている。「影響がない」(「全くない」+「多少あるが気にならない」)は65.8%、「影響がある」(「少々影響がある」+「大いに影響がある」)は32.0%であった。

【地域別】

地域別における全体の傾向との相違は見られず、「影響がない」は「県央地域」が72.7%で最も高く、次いで「島原半島地域」が66.1%、「県北地域」が65.1%と続いている。

【性別】

性別でも全体の傾向との相違は見られず、「影響がない」は男性の方が1.4ポイント高くなっている。

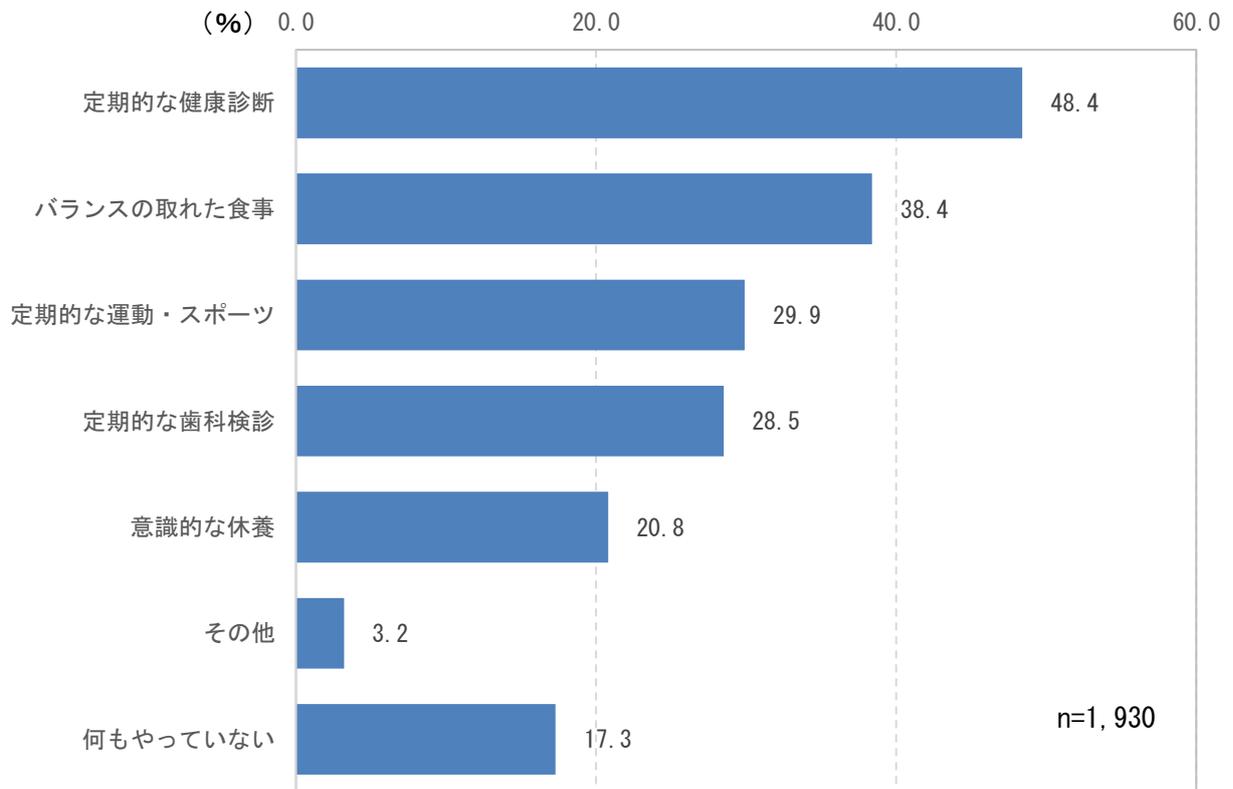
【年齢別】

年齢別で「影響がない」の割合は、「20歳未満」が最も高く90.0%、次いで「30歳代」が82.6%、「40歳代」が77.0%と年齢の上昇とともに「影響がない」の割合は下がる傾向にある。

あなたは、普段から健康の維持・増進のために何か行っていますか。
 (〇はいくつでも)

【調査結果 (ポイント)】

「定期的な健康診断」が約5割でトップ



〔全体〕

健康維持・増進のためにしていることは「定期的な健康診断」が48.4%で最も多く、次いで「バランスの取れた食事」が38.4%、「定期的な運動・スポーツ」が29.9%の順で続いている。

〔地域別〕

地域によるバラツキは見られるものの、おおよそ全体の傾向との相違は見られない。

〔性別〕

性別では「定期的な健康診断」は男女差はみられないが、「バランスの取れた食事」は女性が11.0ポイント、「定期的な歯科検診」は女性が10.2ポイント多くなっている。

〔年齢別〕

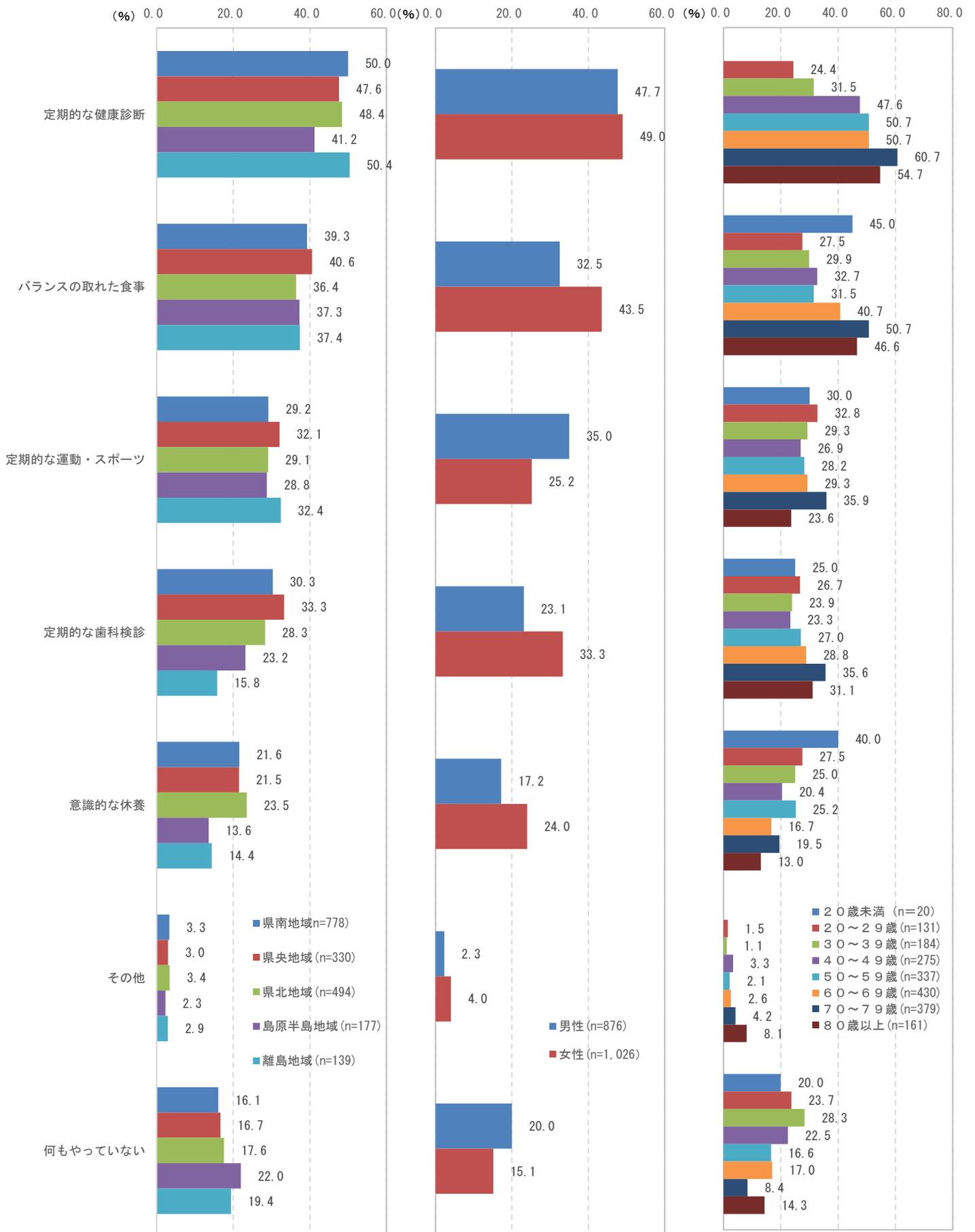
年齢別で「定期的な健康診断」・「バランスの取れた食事」とともに年齢の上昇とともに増加傾向にあり、「70歳代」が最も多くなっている。

【地域別・性別・年齢別比較】

【地域別】

【性別】

【年齢別】

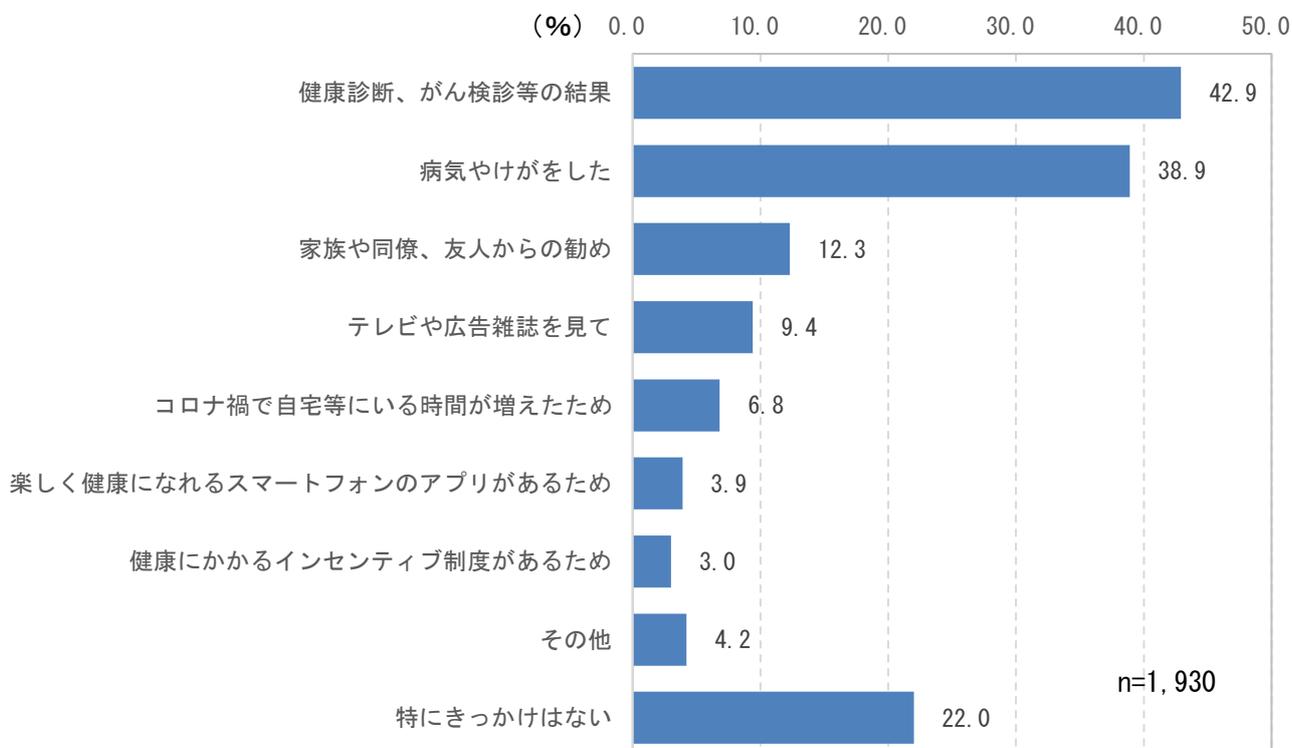


問 21

あなたは、何をきっかけに（何がきっかけであれば）、健康の維持・増進のための活動を行なっていますか（行いますか）。（〇はいくつでも）

【調査結果（ポイント）】

「健康診断、がん検診等の結果」が4割強でトップ



〔全体〕

健康の維持・増進のための活動のきっかけは「健康診断、がん検診等の結果」が42.9%で最も多く、次いで「病気やけがをした」が38.9%、「家族や同僚、友人からの勧め」が12.3%の順で続いている。

〔地域別〕

地域によるバラツキは見られるものの、おおよそ全体の傾向との相違は見られない。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られない。

〔年齢別〕

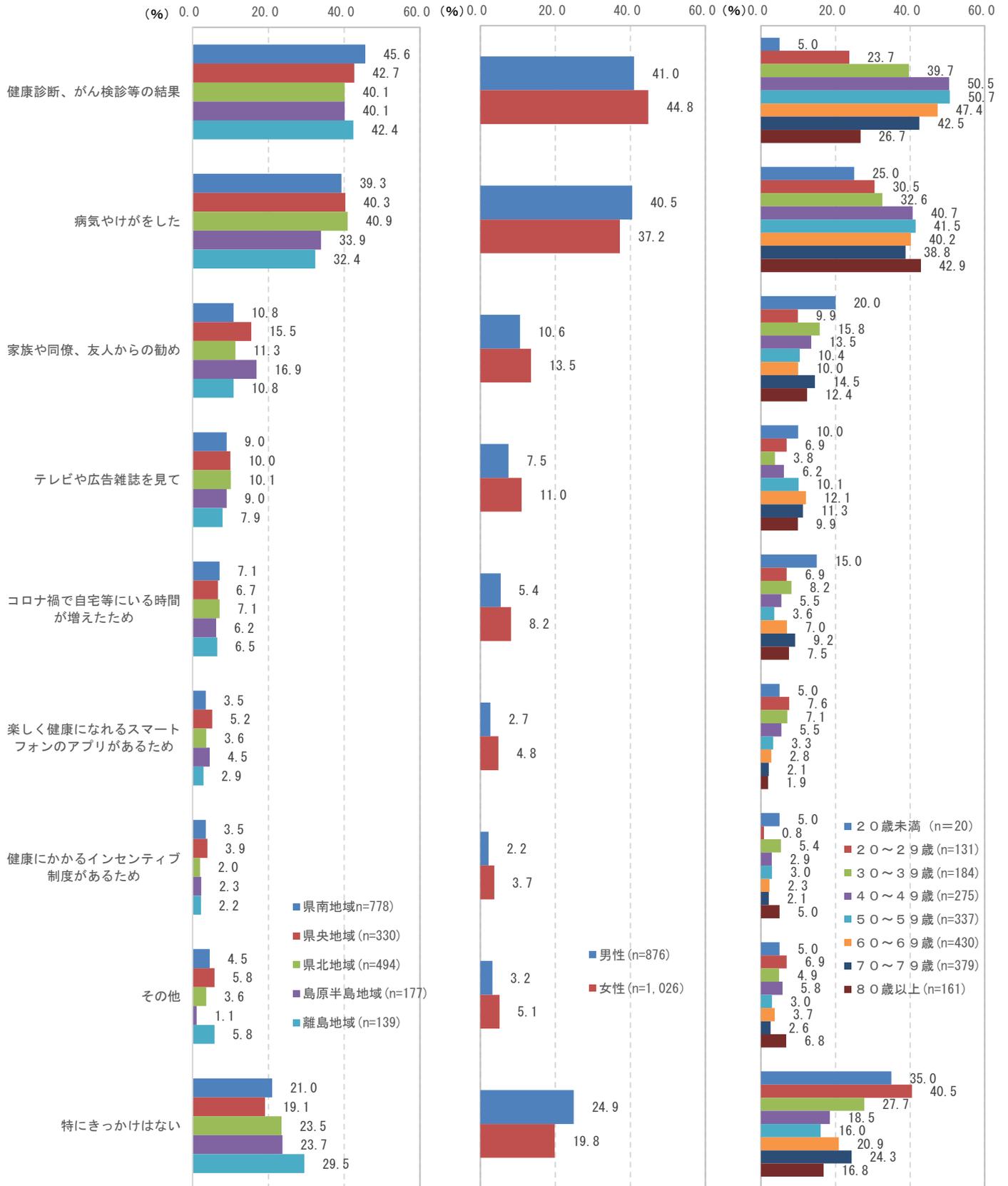
年齢別で「健康診断、がん検診等の結果」は年齢の上昇とともに増加し「50歳代」を上限に減少に転じ、「病気やけがをした」は年齢の上昇とともに増加傾向にある。「家族や同僚、友人からの勧め」と「コロナ禍で自宅等にいる時間が増えたため」はそれぞれ20.2%、15.0%と20歳未満が多い。

【地域別・性別・年齢別比較】

【地域別】

【性別】

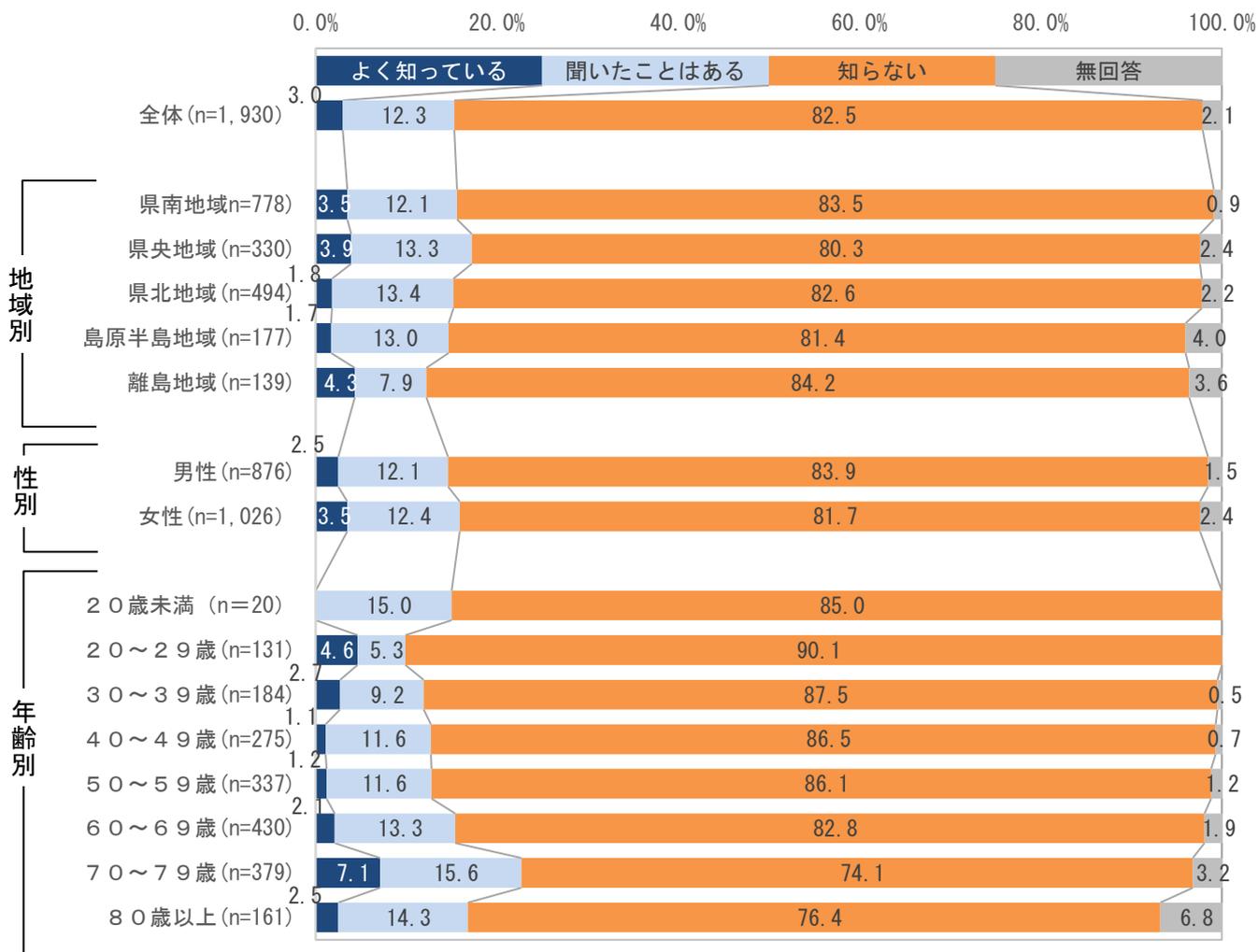
【年齢別】



あなたは、ながさき 3MY チャレンジ※を知っていますか。(〇は 1 つ)

【調査結果 (ポイント)】

「ながさき 3MY チャレンジ」の認知度は約 2 割



【全体】

「ながさき 3MY チャレンジ」について「知らない」が 82.5%で最も多く、認知度（「よく知っている」+「聞いたことはあるが内容は知らない」）は 15.3%であった。

【地域別】

地域別における全体の傾向との相違は見られず、認知度は「県央地域」が 17.2%で最も高く、次いで「県南地域」が 15.6%、「県北地域」が 15.2%と続いている。

【性別】

性別でも全体の傾向との相違は見られず、認知度は女性の方が 1.3 ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別での認知度は、「70 歳代」が最も高く 22.7%、次いで「80 歳以上」が 16.8%、「60 歳代」が 15.4%となっている。

※ながさき 3MY チャレンジ：

毎年一回、健診受けて 毎日ニコニコ 9000 歩 毎日三回、野菜を食べて よーし みんなで健康長寿！

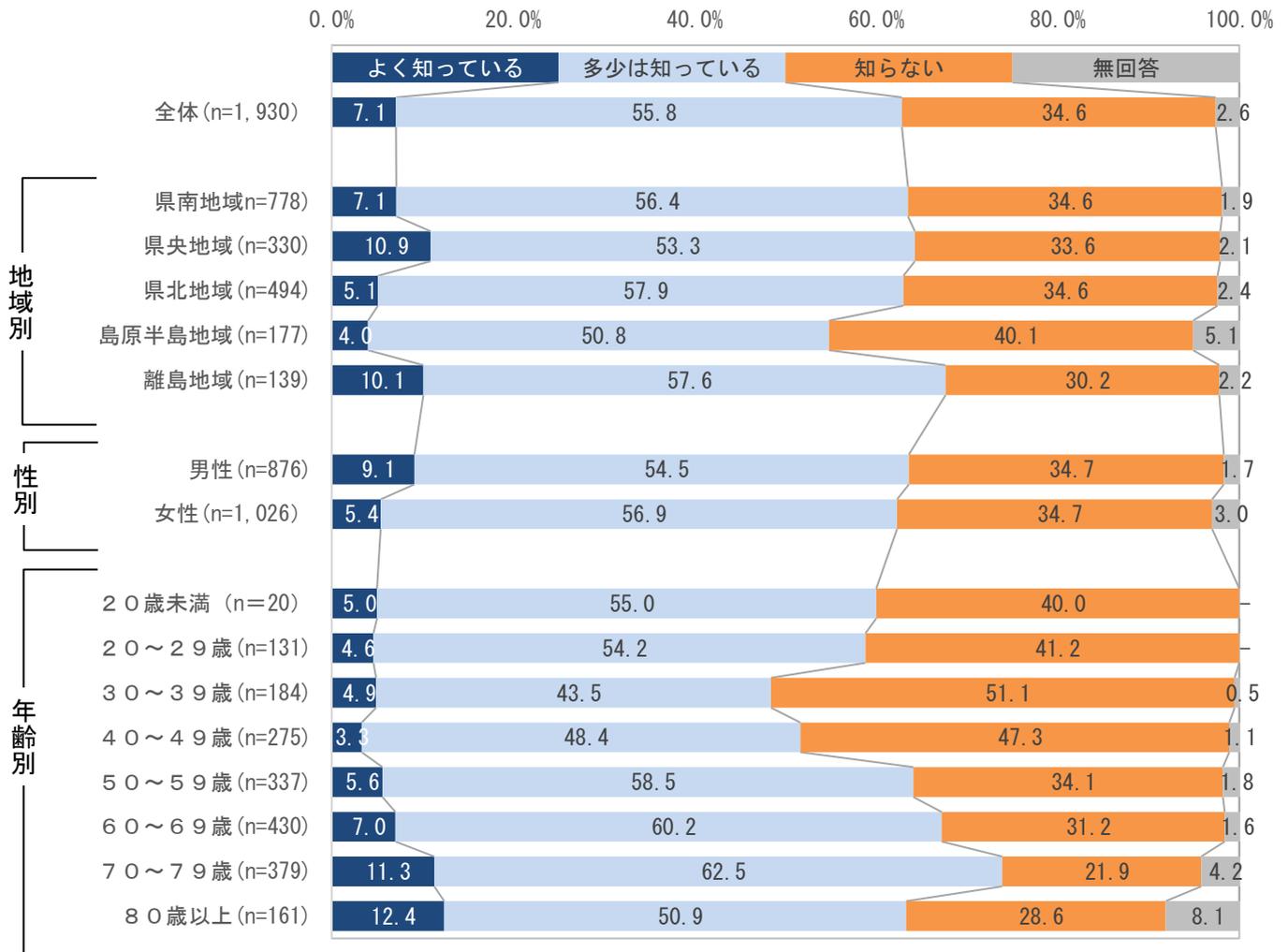
【環境について】

問23

あなたは、地球温暖化対策である「緩和策」や「適応策」についてどの程度知っていますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「緩和策」・「適応策」の認知度は6割



〔全体〕

「緩和策」・「適応策」について「多少は知っている（聞いたことはある）」が55.8%で最も多く、認知度（「よく知っている」+「多少は知っている（聞いたことはある）」）は62.9%であり、「知らない」が34.6%あった。

〔地域別〕

地域別における全体の傾向との相違は見られず、認知度は「離島地域」が67.7%で最も高く、次いで「県央地域」が64.2%、「県南地域」が63.5%と続いている。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られず、認知度は男性の方が1.3ポイント高くなっている。

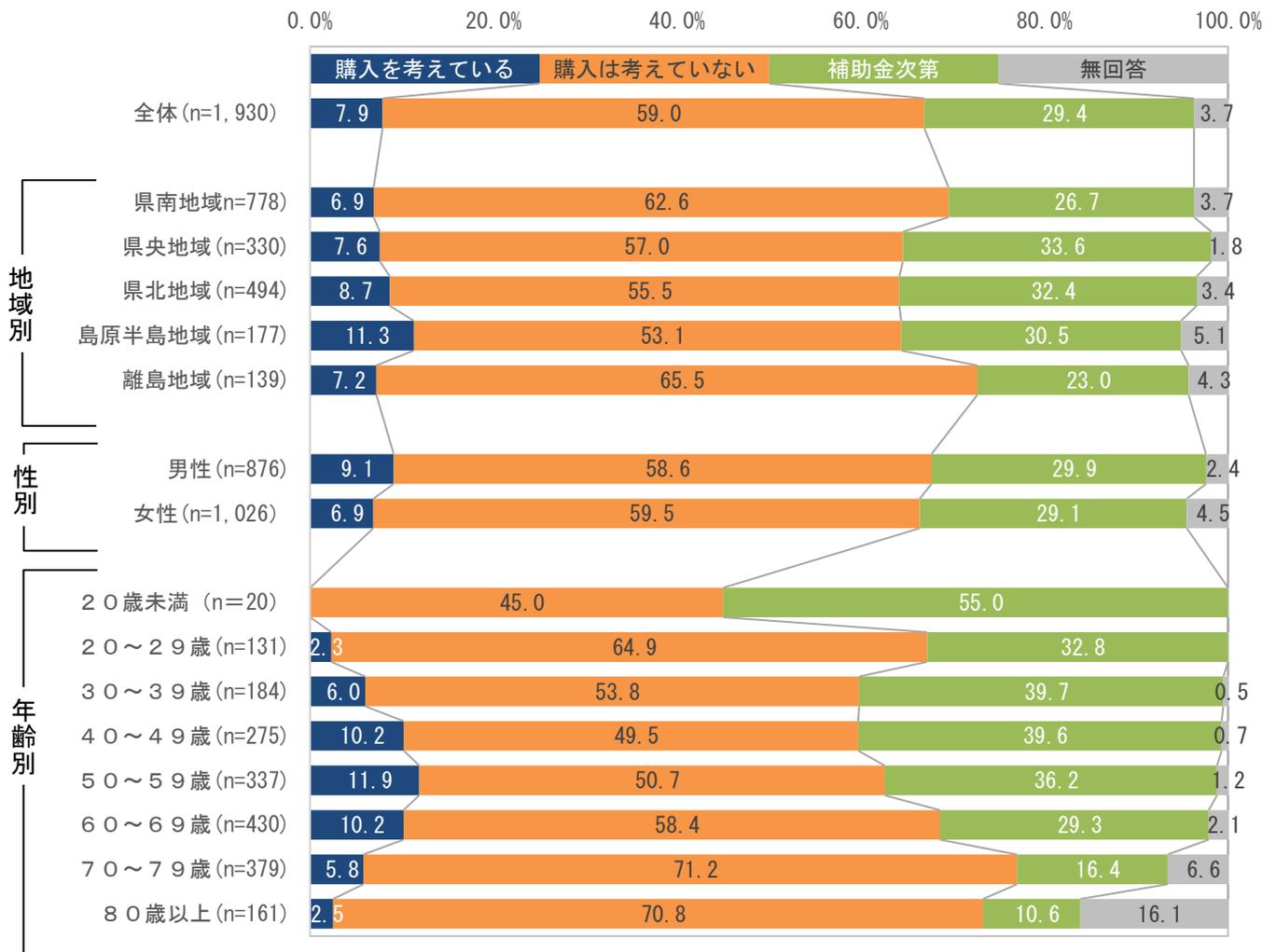
〔年齢別〕

年齢別での認知度は、「70歳代」が最も高く73.8%、次いで「60歳代」が67.2%、「50歳代」が64.1%となっている。

国は「2035年までに新車販売で電動車100%を実現」という方針を示していますが、あなたは、5年以内に電動自動車等※の購入を考えていますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

5年以内の電動自動車等購入予定は1割弱



〔全体〕

5年以内の電動自動車等購入予定は「購入は考えていない」が59.0%で最も多く、次いで「補助金次第では購入を考える」が29.4%、「購入を考えている（購入している）」が7.9%の順であった。

〔地域別〕

地域別における全体の傾向との相違は見られず、「購入を考えている（購入している）」は「島原半島地域」が11.3%で最も高く、次いで「県北地域」が8.7%、「県央地域」が7.6%と続いている。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られず、「購入を考えている（購入している）」は男性の方が2.2ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

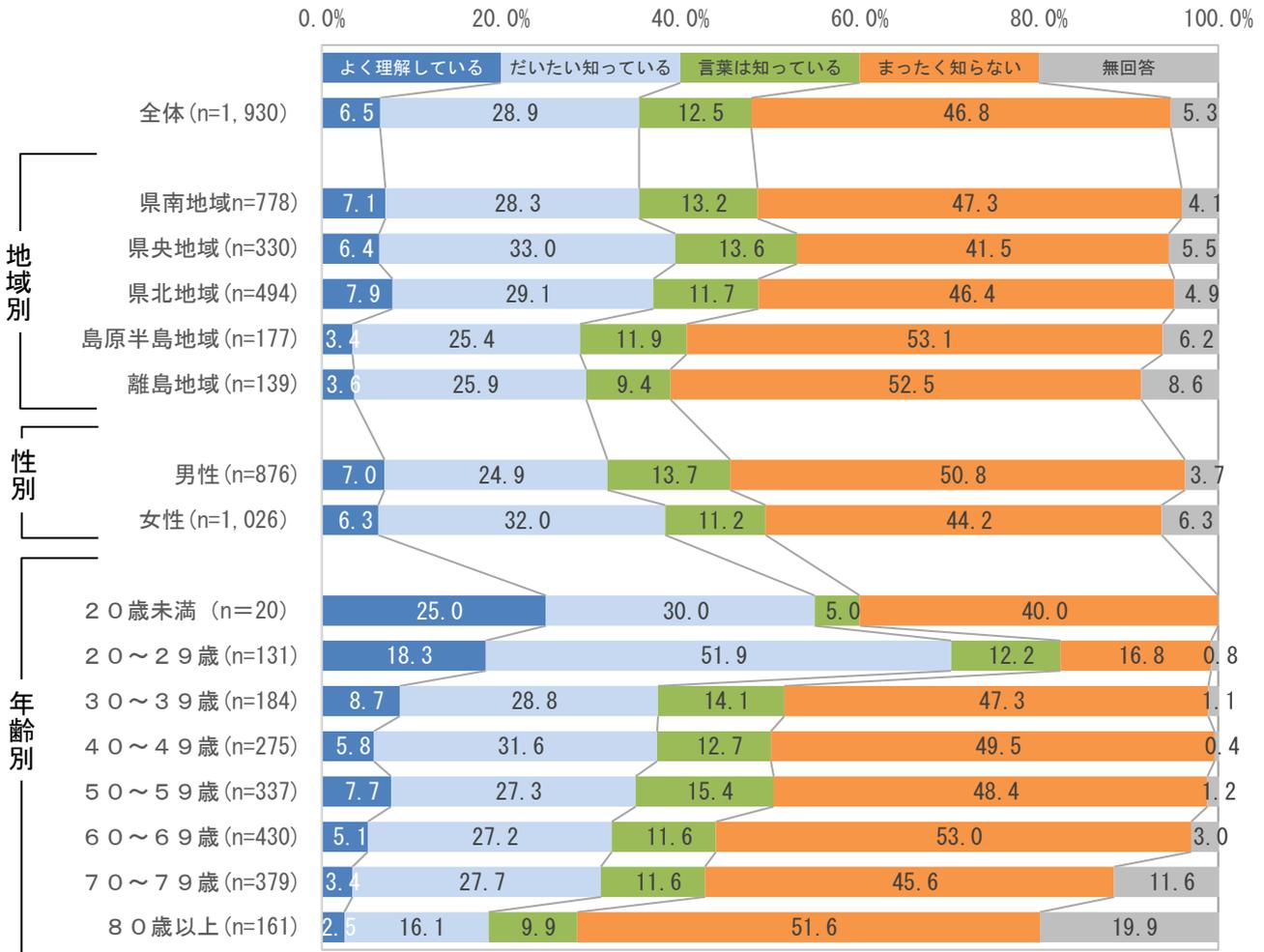
年齢別での「購入を考えている（購入している）」は、「50歳代」が11.9%と最も高く、次いで「40歳代」・「60歳代」が10.2%となっている。

※電動自動車等とは、電気自動車、ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車のこと。

あなたは、4R（よんアール・フォーアール）※を知っていますか。（〇は1つ）

【調査結果（ポイント）】

「4R（よんアール・フォーアール）」の認知度は約4割



〔全体〕

「4R（よんアール・フォーアール）」について「まったく知らない」が46.8%で最も多く、次いで「だいたい知っている」が28.9%、「内容は知らないが言葉は知っている」が12.5%の順で続いており、認知度（「よく理解している」+「だいたい知っている」）は35.4%であった。

〔地域別〕

地域別における全体の傾向との相違は見られず、認知度は「県央地域」が39.4%で最も高く、次いで「県北地域」が37.0%、「県南地域」が35.4%と続いている。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られず、認知度は女性の方が6.4ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

年齢別での認知度は、「20歳代」が70.2%最も多く、次いで「20歳未満」が55.0%、「30歳代」が37.5%、以降年齢の上昇とともに認知度は低くなっている。

※4R（よんアール・フォーアール）

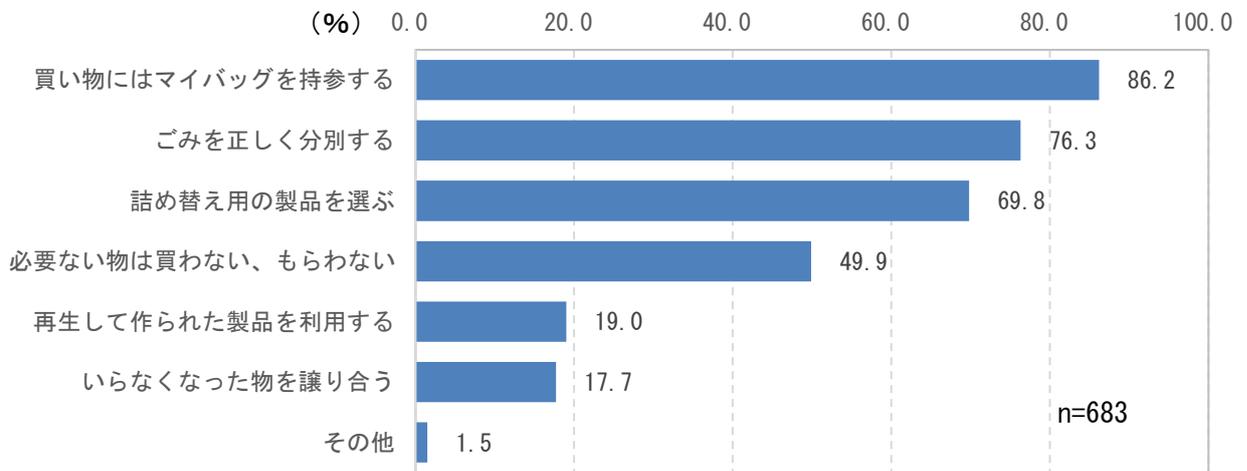
Refuse（リフューズ）：持ち込まないように断る Reduce（リデュース）：減らす

Reuse（リユース）：再使用する Recycle（リサイクル）：新しいものに作りかえて再生利用する

■認知者による対応（4Rを「よく理解している」「だいたい知っている」と回答された方）
 普段行っていることをお答えください。（〇はいくつでも）

【調査結果（ポイント）】

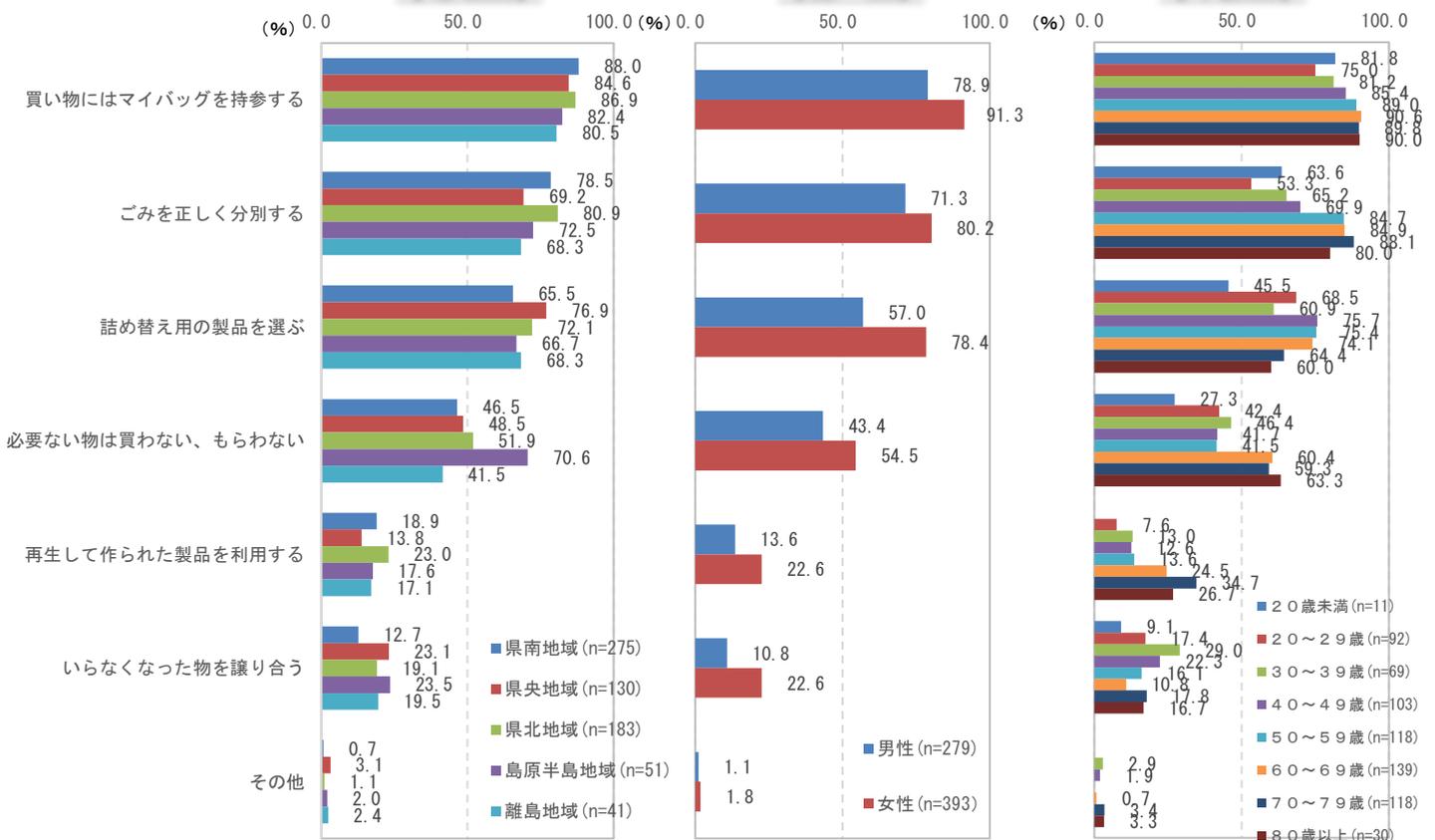
「買い物にはマイバッグを持参する」が約9割でトップ



【地域別】

【性別】

【年齢別】



〔全体〕

認知者が行っている普段の行動は「買い物にはマイバッグを持参する」が86.2%で最も多く、次いで「ごみを正しく分別する」が76.3%、「詰め替え用の製品を選ぶ」が69.8%と続いている。

〔地域別〕

地域別における全体の傾向との相違は「島原半島地域」で「必要ない物は買わない、もらわない」が3位などとなっている。

〔性別〕

性別では全体の傾向との相違は見られないが、女性が各項目10ポイント前後高くなっている。

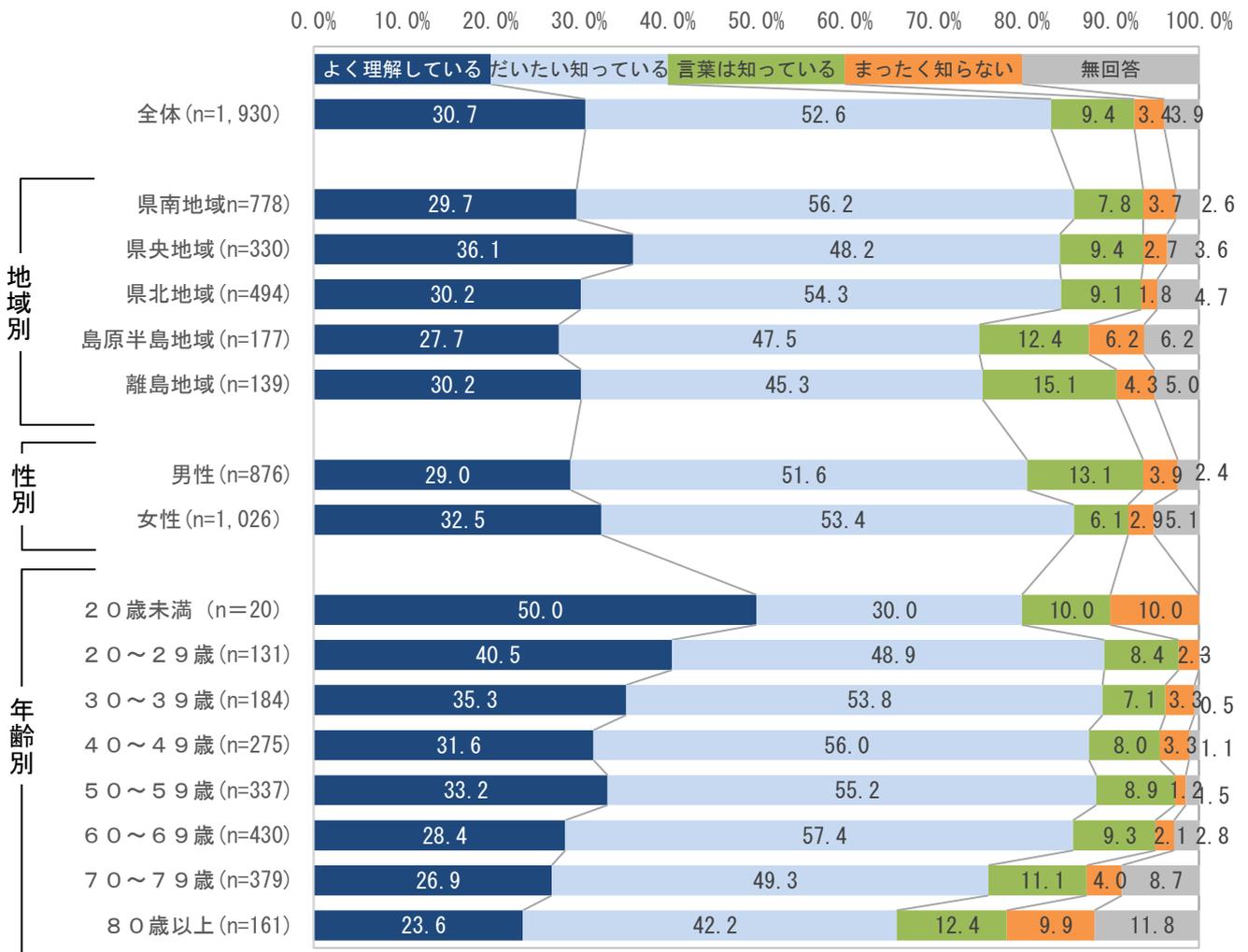
〔年齢別〕

年齢別でも全体の傾向との大きな相違は見られない。

あなたは、「食品ロス※」を知っていますか。
(○は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「食品ロス」の認知度は 8 割強



〔全体〕

「食品ロス」について「だいたい知っている」が52.6%で最も多く、次いで「よく理解している」が30.7%、「内容は知らないが言葉は知っている」が9.4%の順で続いており、認知度（「よく理解している」+「だいたい知っている」）は83.3%であった。

〔地域別〕

地域別における全体の傾向との相違は見られず、認知度は「県南地域」が85.9%で最も高く、次いで「県北地域」が84.5%、「県央地域」が84.3%と続いている。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られず、認知度は女性の方が5.3ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

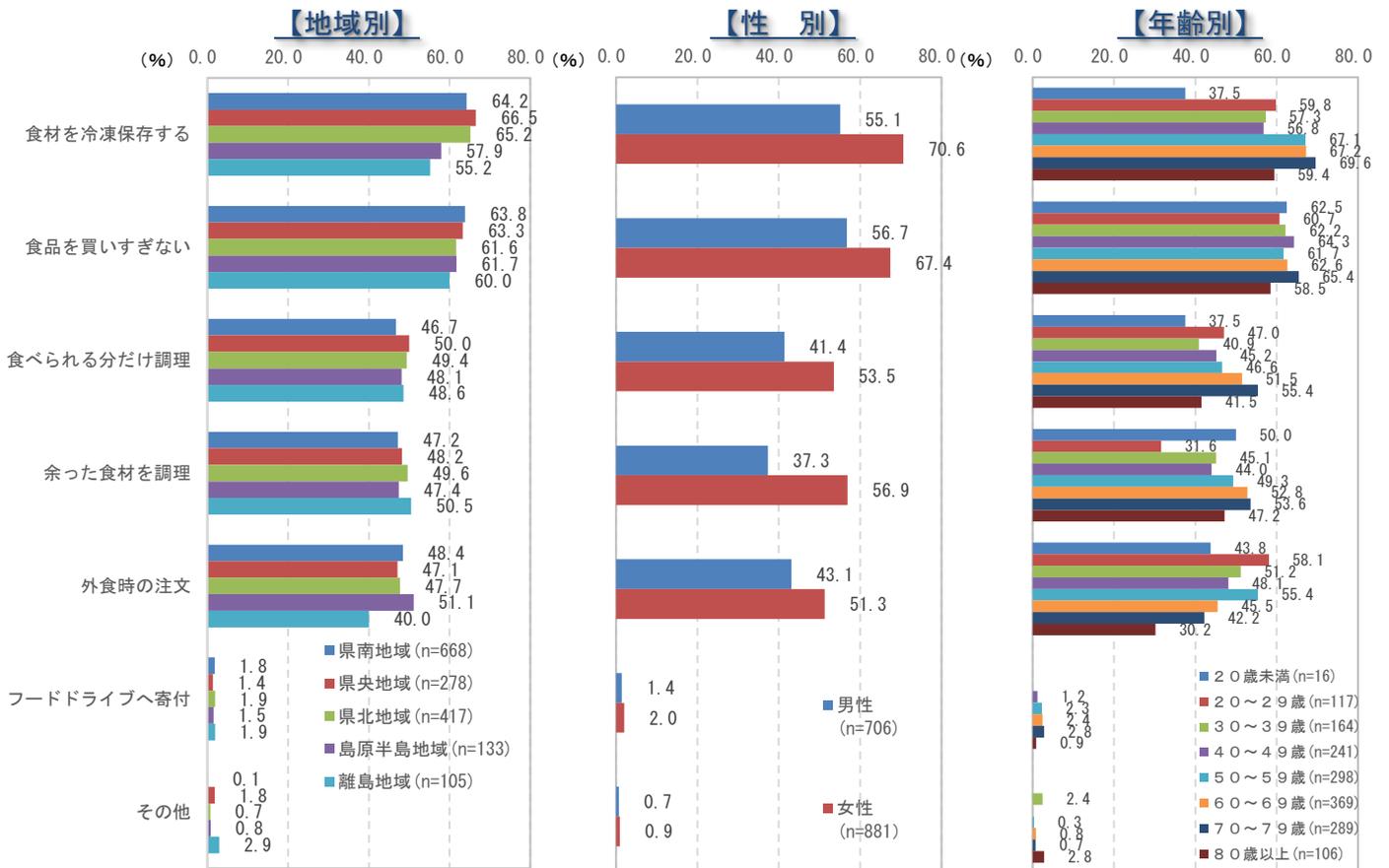
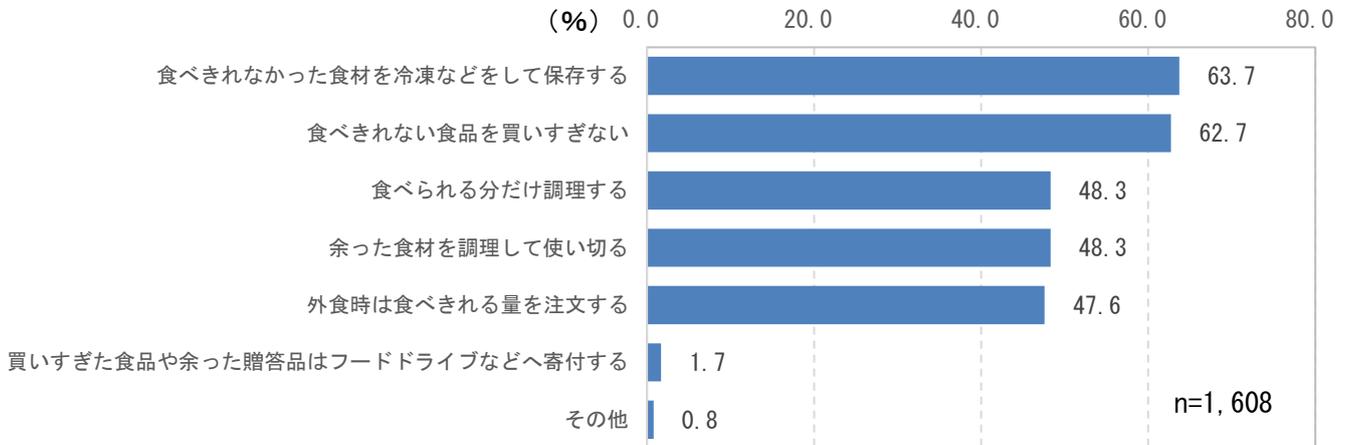
年齢別での認知度は、「20歳代」が89.4%で最も多く、次いで「30歳代」が89.1%、「50歳代」が88.4%と続いている。

※食品ロス：本来食べられるにもかかわらず捨てられる食品

■認知者による対応（食品ロスを「よく理解している」「だいたい知っている」と回答された方）
 普段行っていることをお答えください。（〇はいくつでも）

【調査結果（ポイント）】

「食べきれなかった食材を冷凍などをして保存する」が6割強でトップ



〔全体〕

認知者が行っている普段の行動は「食べきれなかった食材を冷凍などをして保存する」が63.7%で最も多く、次いで「食べきれない食品を買いすぎない」が62.7%、「食べられる分だけ調理する」「余った食材を調理して使い切る」がそれぞれ48.3%と続いている。

〔地域別〕

地域別における全体の傾向との相違は「島原半島地域」・「離島地域」で「食べきれない食品を買いすぎない」が1位となっている。

〔性別〕

性別では全体の傾向との相違は見られないが、女性が各項目10ポイント前後高くなっている。

〔年齢別〕

年齢別における全体の傾向との相違は「20歳代」で「外食時は食べきれる量を注文する」が3位、50歳以下で「食べきれない食品を買いすぎない」が1位となっている。

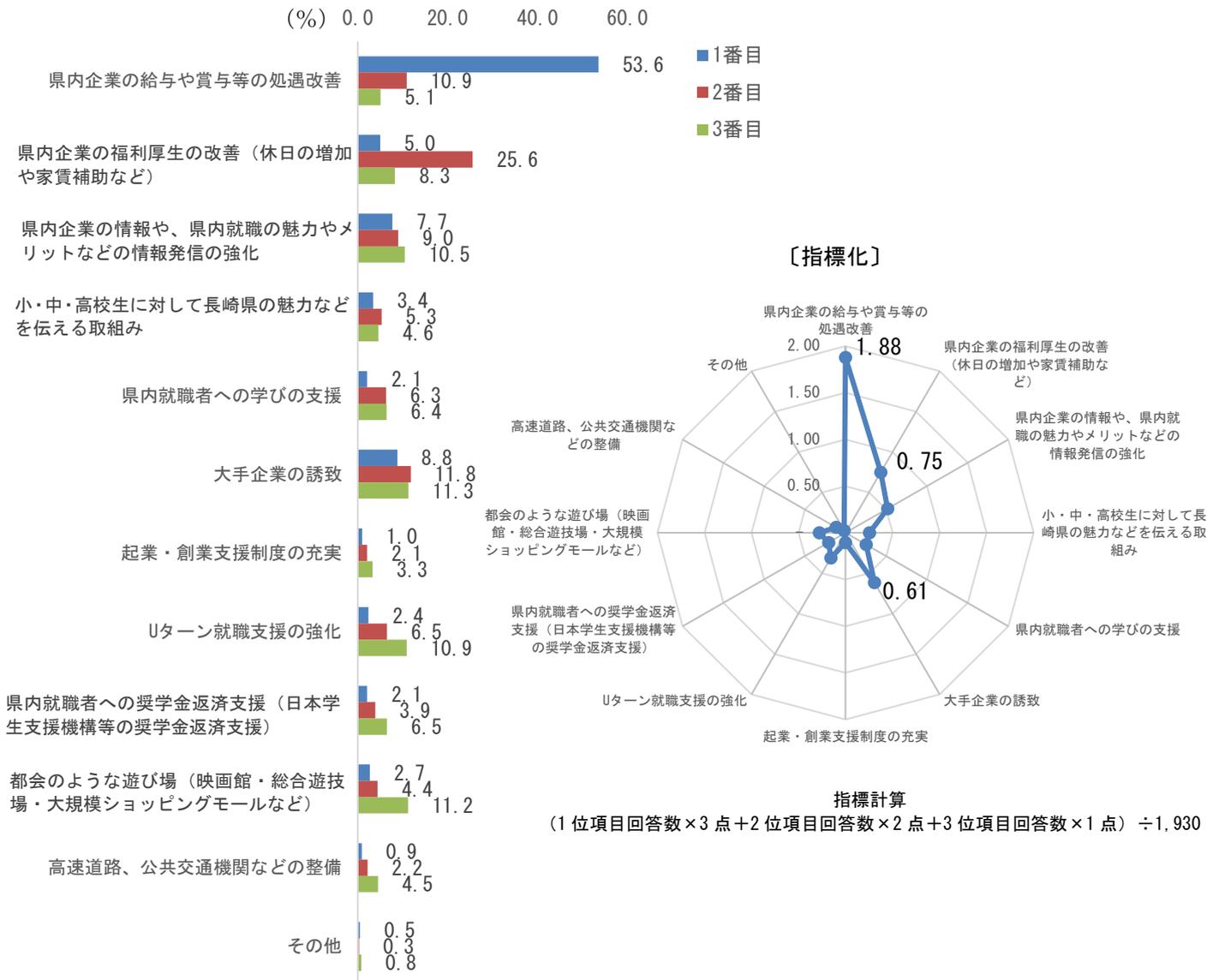
【県内就職対策、県外サービスについて】

問27

就職する時に県内を選択する若者を増やすためにはどうしたらいいと思いますか。
(最も必要なものから順番に最大3つまで)

【調査結果 (ポイント)】

「県内企業の給与や賞与等の処遇改善」がトップ



県内就職選択の若者を増やすために最も必要なものは、1位の項目では「県内企業の給与や賞与等の処遇改善」が53.6%で最も多く、次いで「大手企業の誘致」、「県内企業の情報や、県内就職の魅力やメリットなどの情報発信の強化」が続いている。

2位の項目では「県内企業の福利厚生改善 (休日の増加や家賃補助など)」が25.6%で最も多く、次いで「大手企業の誘致」「県内企業の給与や賞与等の処遇改善」が続いている。

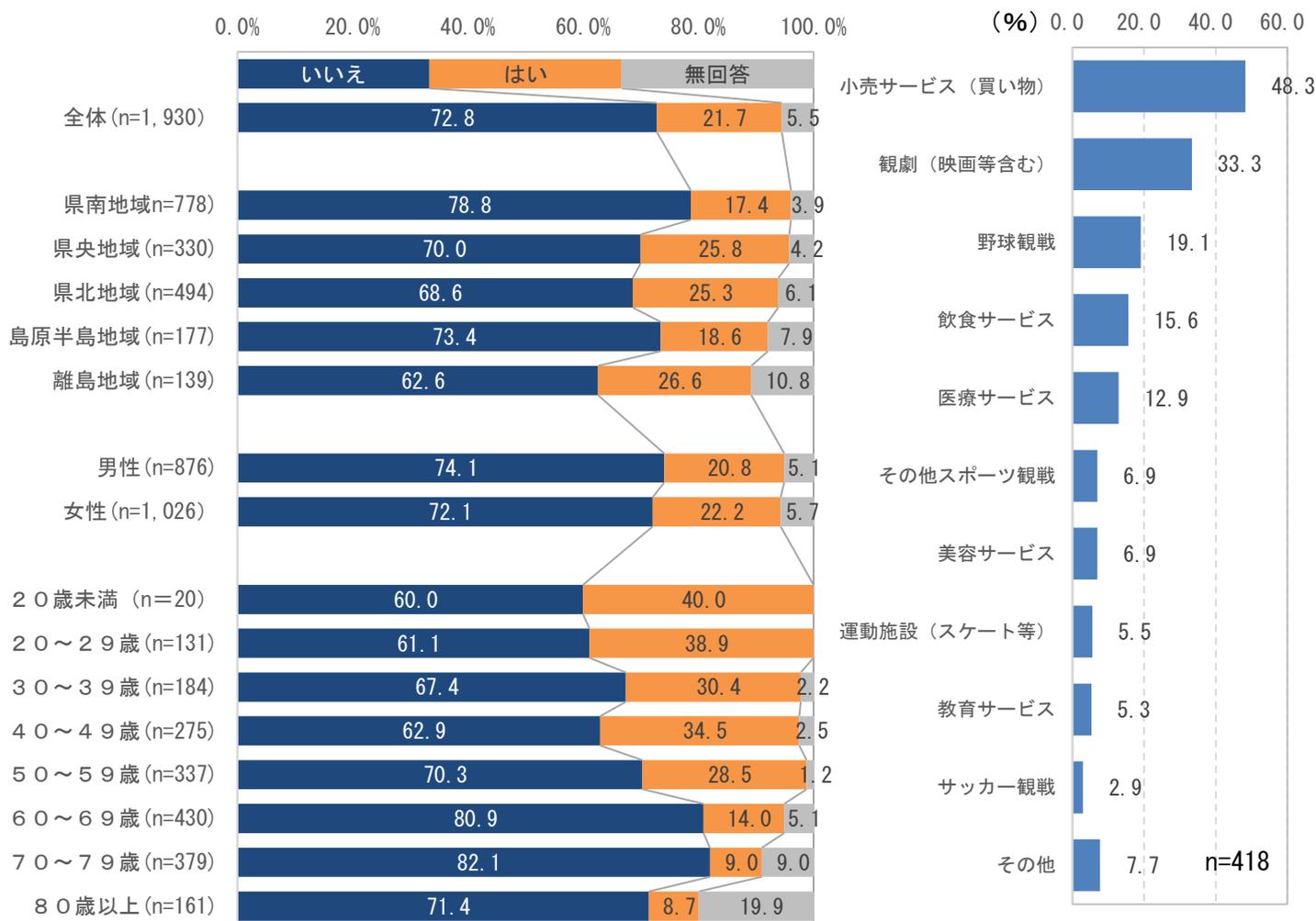
3位の項目では、「大手企業の誘致」が11.3%で最も多く、次いで「都会のような遊び場 (映画館・総合遊技場・大規模ショッピングモールなど)」「Uターン就職支援の強化」が続いている。

以上の1~3位の項目を指数化して比べてみると、「県内企業の給与や賞与等の処遇改善」が1位、「県内企業の福利厚生改善 (休日の増加や家賃補助など)」が2位、「大手企業の誘致」が3位となった。

あなたは、県内で十分にサービスを受けることができないため、県外でサービスの提供を受けていますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

**県外でのサービス受益者は約 2 割
受けているサービスは「小売サービス (買い物)」が 5 割弱でトップ**



〔全体〕

県外でサービスの提供を受けているのは 21.7%であり、受けているサービスでは「小売サービス (買い物)」が 48.3%で最も多く、次いで「観劇 (映画等含む)」が 33.3%、「野球観戦」が 19.1%と続いている。

〔地域別〕

地域別で県外でサービスの提供を受けているのは「離島地域」が 26.6%で最も多く、次いで「県央地域」が 25.8%、「県北地域」が 25.3%と続いている。受けているサービスにおける全体の傾向との相違は「離島地域」で「医療サービス」が 48.6%と 1 位になっている。

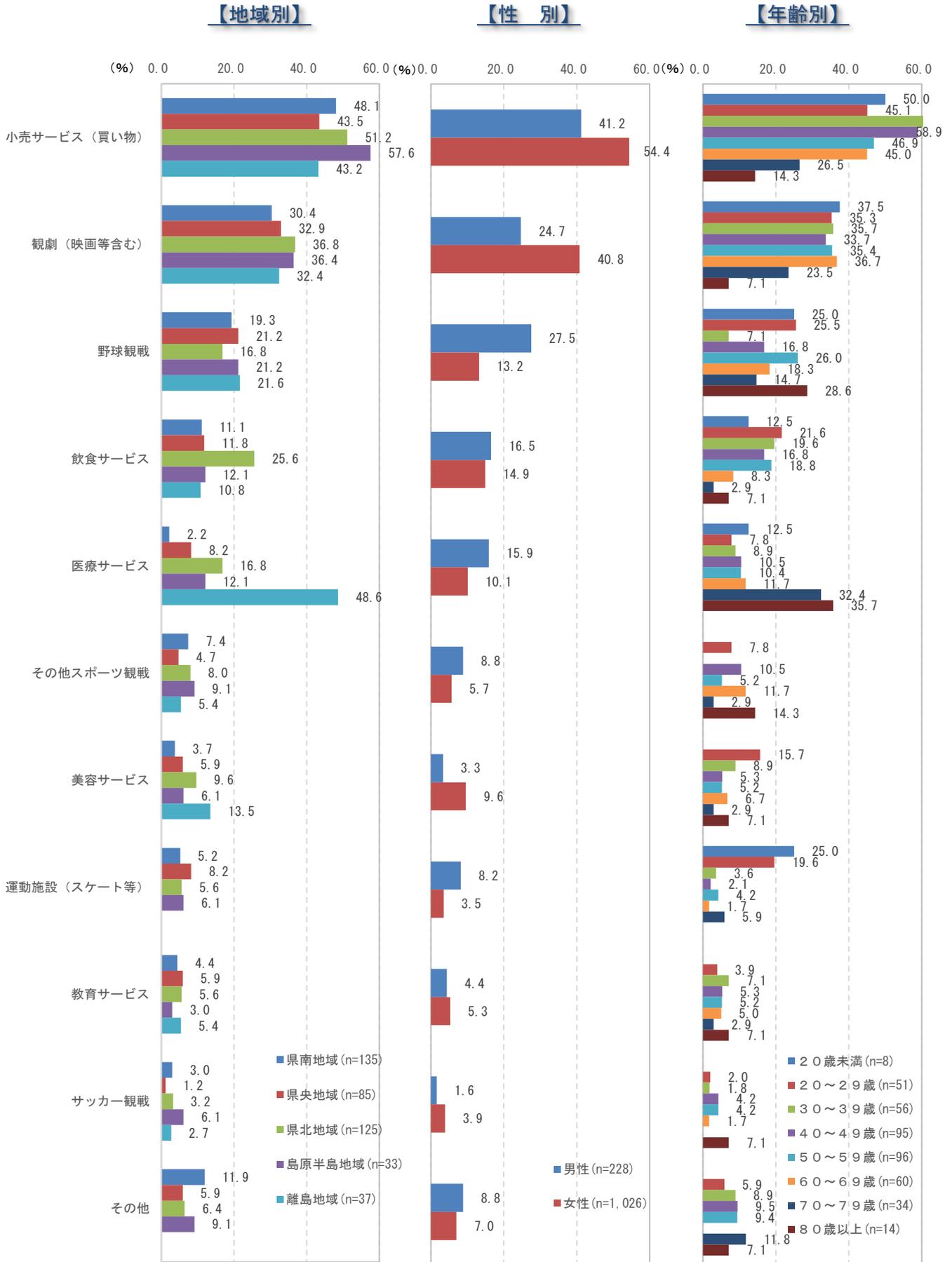
〔性別〕

性別で県外でサービスの提供を受けているのは、女性が男性よりも 1.4 ポイント高い。全体の傾向との相違は「男性」で「野球観戦」が 2 位となっている。

〔年齢別〕

年齢別で県外でサービスの提供を受けているのは、「20 歳未満」が 40.0%で最も多く、年齢の上昇とともに減少している。全体の傾向との大きな違いは 70 歳以上で「医療サービス」が 1 位となっている。

【受けているサービス：地域別・性別・年齢別比較】



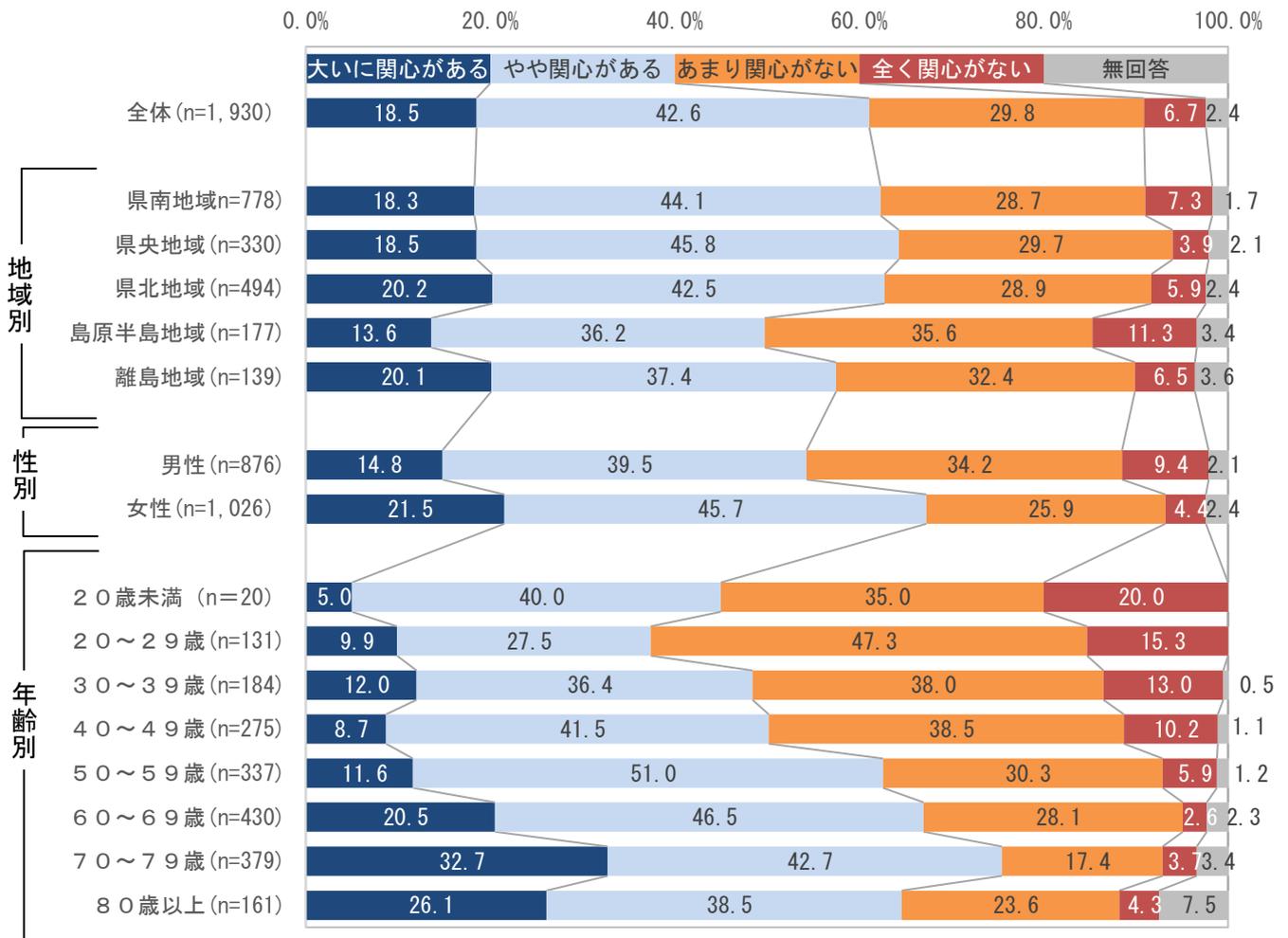
【有機農産物について】

問29

あなたは、日頃利用する農産物が「有機農産物」であることに興味がありますか。
(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

有機農産物への関心度は6割



〔全体〕

「有機農産物」への関心は「やや関心がある」が42.6%で最も多く、次いで「あまり関心がない」が29.8%、「大に関心がある」が18.5%の順で続いており、関心度は（「大に関心がある」+「やや関心がある」）は61.1%であった。

〔地域別〕

地域別での関心度は「県央地域」が64.3%で最も高く、次いで「県北地域」が62.7%、「県南地域」が62.4%と続いている。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られず、関心度は女性の方が12.9ポイント高くなっている。

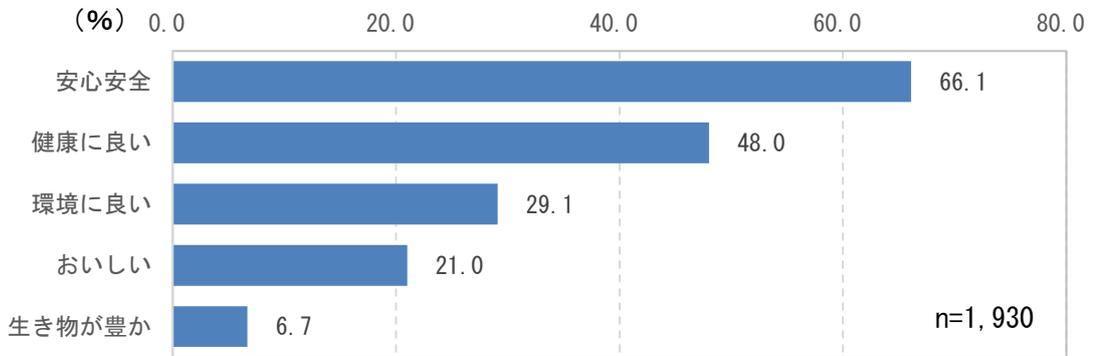
〔年齢別〕

年齢別での関心度は、「70歳代」が75.4%最も多く、次いで「60歳代」が67.0%、「80歳以上」が64.6%と続いている。

あなたは、「有機農産物」に対してどのようなイメージがありますか。(〇はいくつでも)

【調査結果 (ポイント)】

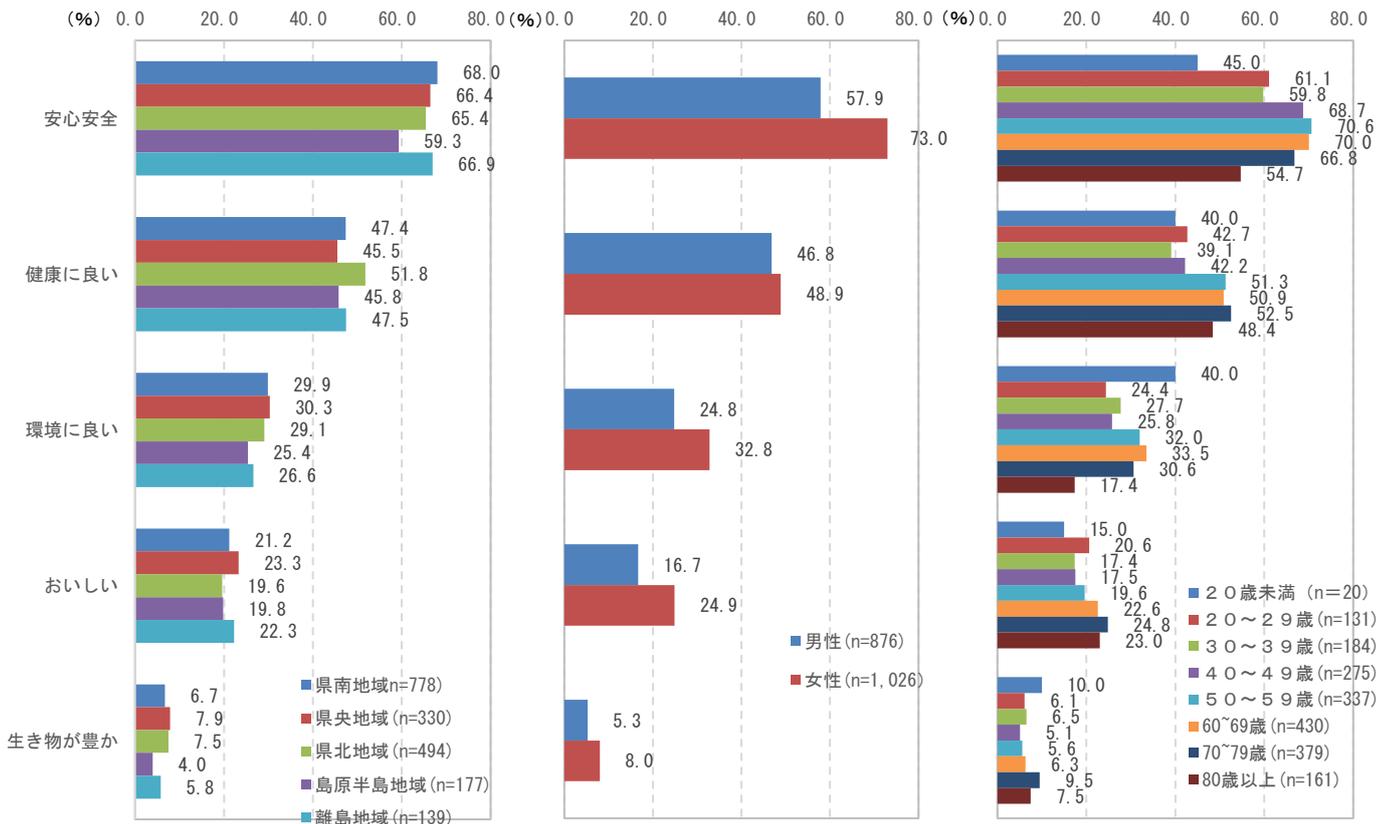
「有機農産物」のイメージは「安心安全」が7割弱でトップ



【地域別】

【性別】

【年齢別】



[全体]

「有機農産物」のイメージは「安心安全」が66.1%で最も多く、次いで「健康に良い」が48.0%、「環境に良い」が29.1%と続いている。

[地域別]

地域別で多少のバラツキが見られるものの、全体の傾向との相違は見られない。

[性別]

性別でも全体の傾向との相違は見られないが、各項目とも女性の方がポイントが高くなっている。

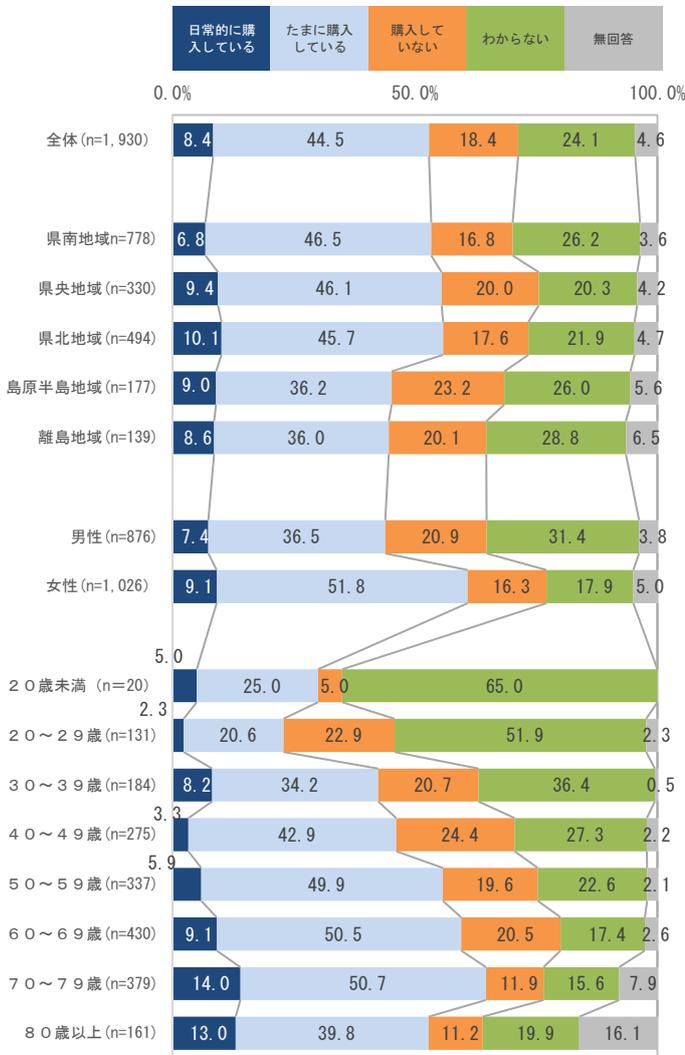
[年齢別]

年齢別でもバラツキは見られるものの全体の傾向との相違は見られない。

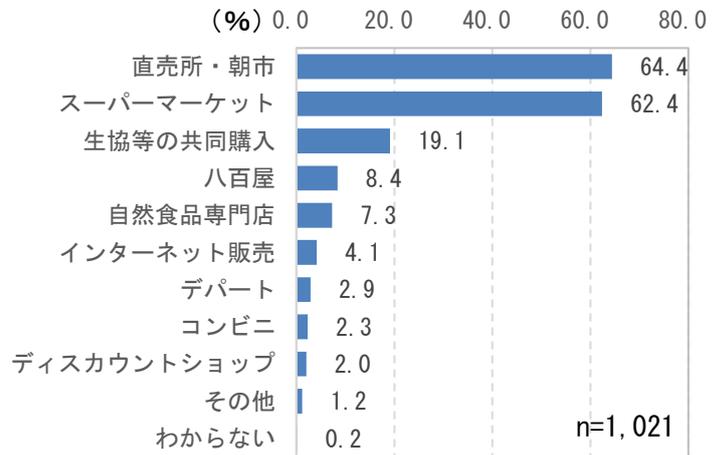
あなたは、「有機農産物」を購入していますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

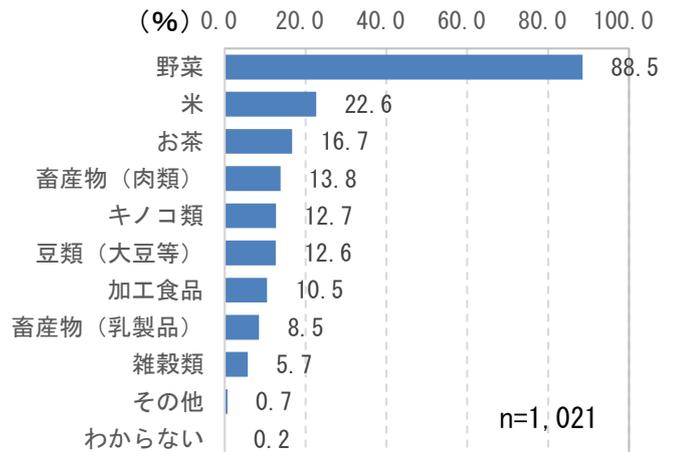
「有機農産物」の購入は5割、購入先は「直売所・朝市」が6割強でトップ、購入品は「野菜」が9割弱でトップ



■ 購入先



■ 購入商品



〔全体〕

有機農産物の購入は「たまに購入している」が44.5%で最も多く、次いで「わからない」が24.1%、「購入していない」が18.4%と続いており、「購入している」(「日常的に購入している」+「たまに購入している」)は52.9%となっている。

購入先は「直売所・朝市」が64.4%で最も多く、次いで「スーパーマーケット」が62.4%、「生協等の共同購入」が19.1%と続いており、購入品は「野菜」が88.5%で最も多く、次いで「米」が22.6%、「お茶」が16.7%で続いている。

〔地域別〕

地域別で「購入している」は「県北地域」が55.8%で最も多く、次いで「県央地域」が55.5%、「県南地域」が53.3%で続いている。

〔性別〕

性別で全体の傾向との相違は見られないが、「購入している」では女性の方が17ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

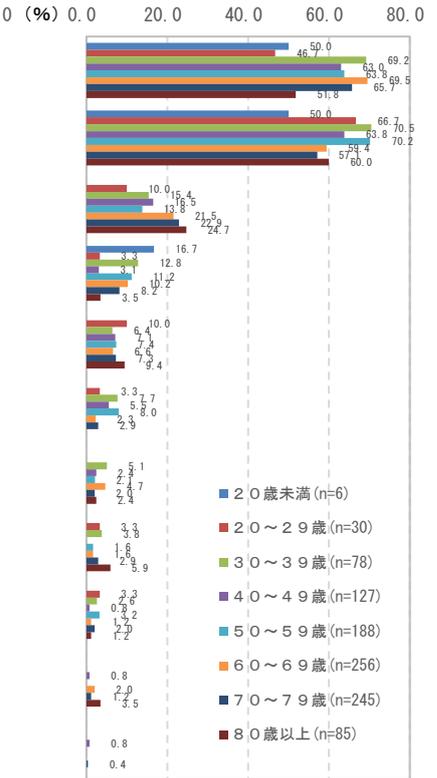
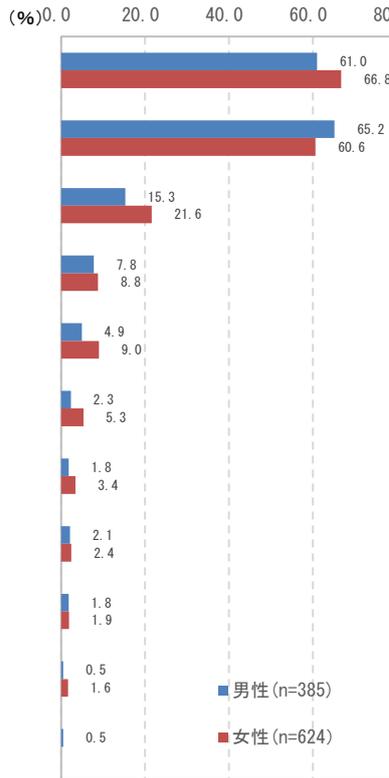
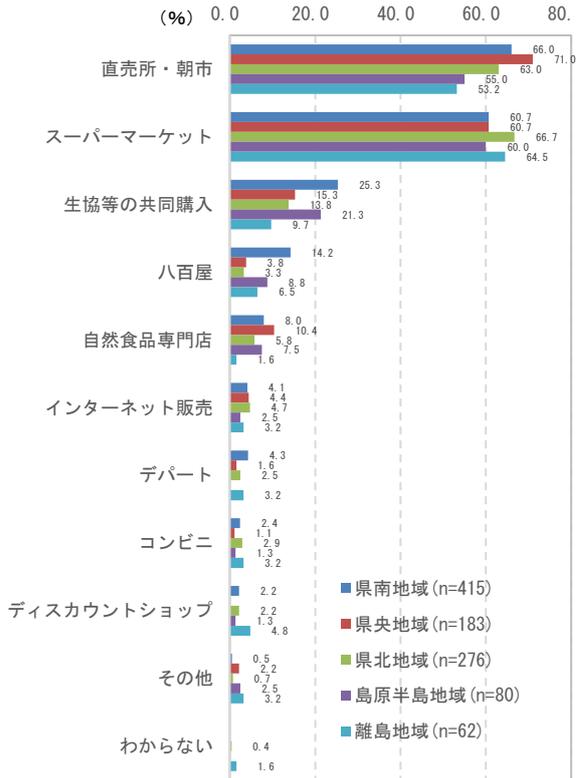
年齢別では、年齢の上昇とともに「購入している」の割合が増加しており、最も多かったのは「70歳代」の64.7%であった。

購入先

【地域別】

【性別】

【年齢別】

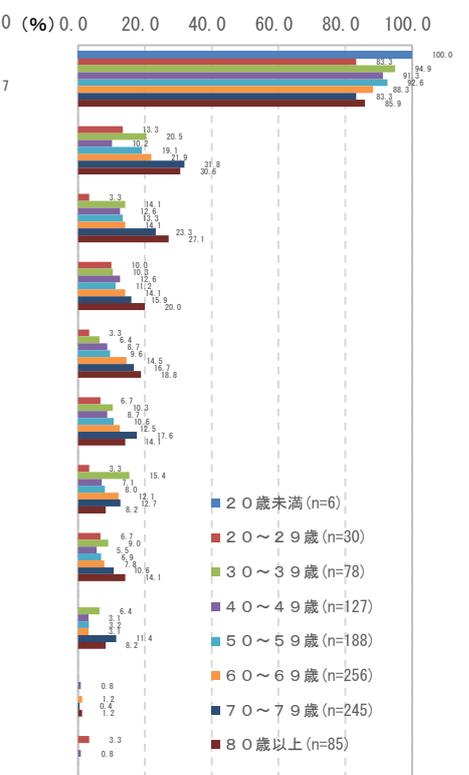
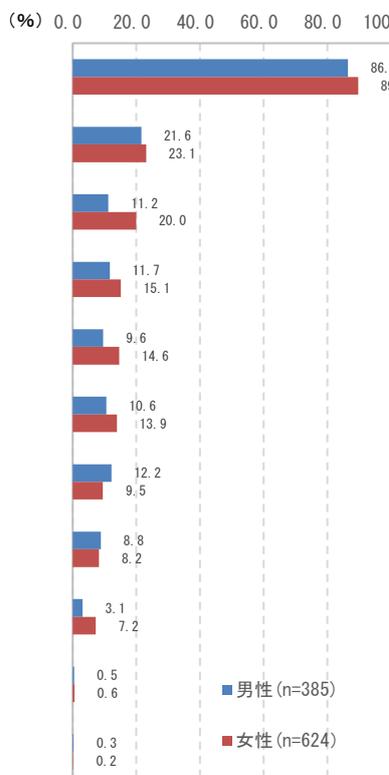
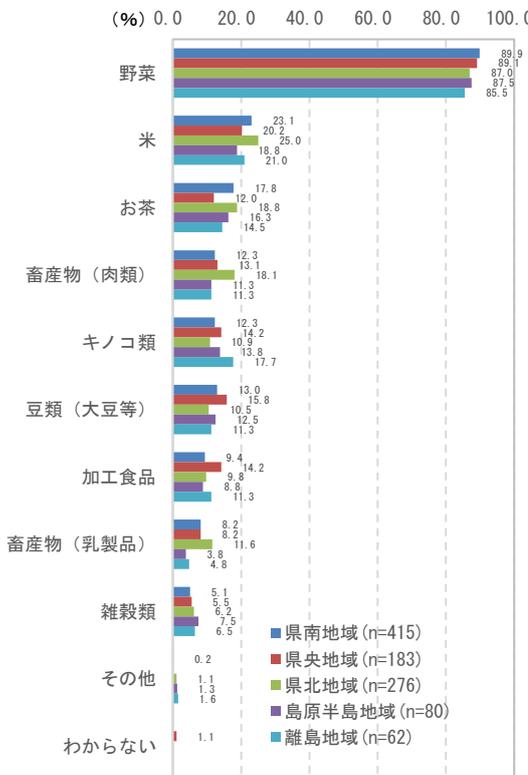


購入商品

【地域別】

【性別】

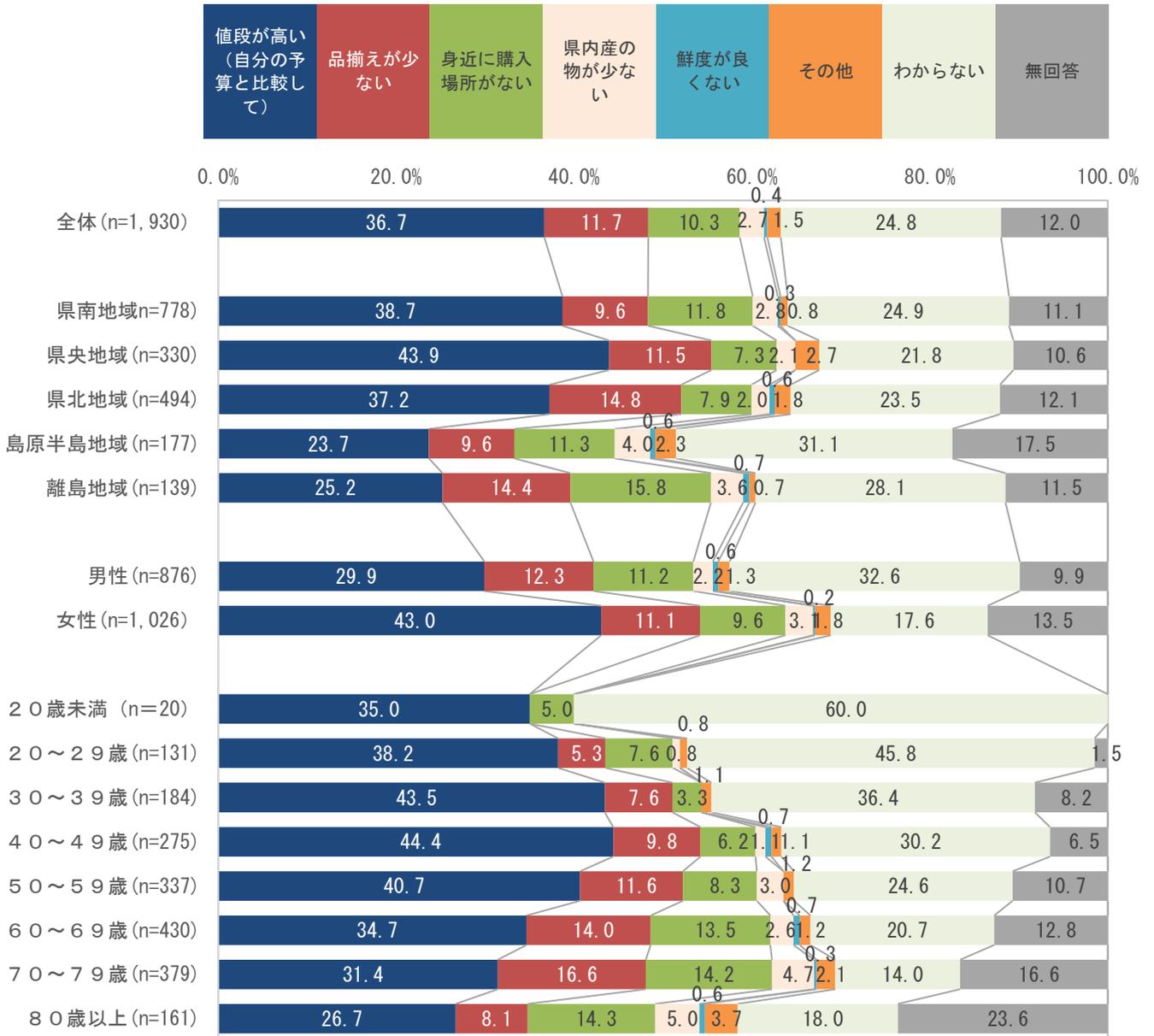
【年齢別】



あなたが、「有機農産物」を購入するにあたって、困っていることは何ですか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「値段が高い (自分の予算と比較して)」が 4 割弱でトップ



〔全体〕

有機農産物の購入にあたって困っていることは「値段が高い (自分の予算と比較して)」が 36.7% で最も多く、次いで「品揃えが少ない」が 11.7%、「身近に購入場所がない」が 10.3% と続いている。

〔地域別〕

地域別で全体の傾向との相違が見られるのは「県南地域」・「島原半島地域」・「離島地域」で「身近に購入場所がない」が 2 位に上がっている

〔性別〕

性別で全体の傾向との相違は見られないが、「値段が高い (自分の予算と比較して)」で女性の方が 13.1 ポイント高くなっている。

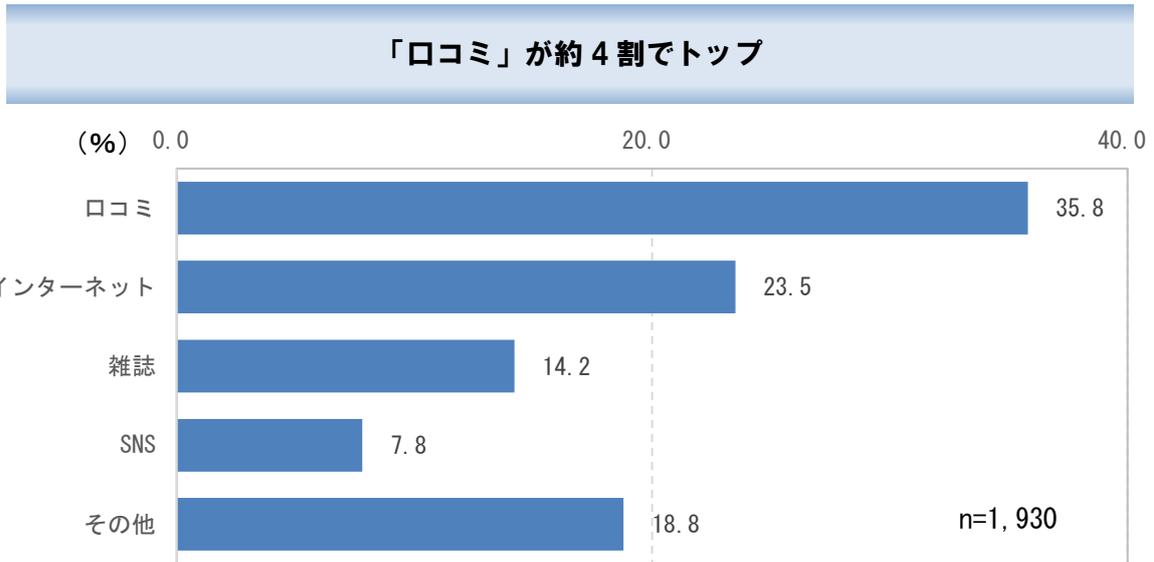
〔年齢別〕

年齢別で全体の傾向との相違が見られるのは「20 歳代」・「80 歳以上」で「身近に購入場所がない」が 2 位に上がっている

問 33

あなたは、有機農業・農産物について、どのようにして情報を得ていますか。
(〇はいくつでも)

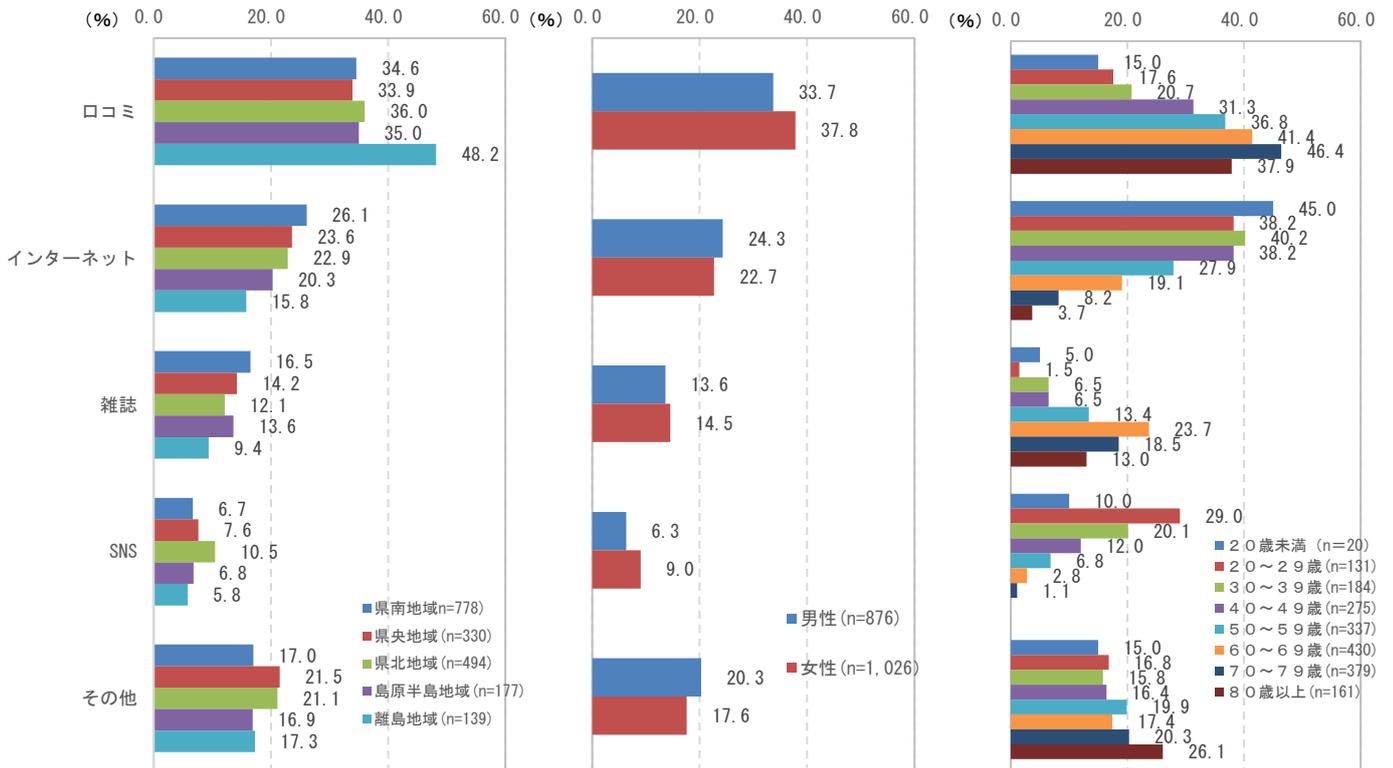
【調査結果 (ポイント)】



【地域別】

【性別】

【年齢別】



〔全体〕

情報を得る方法は「口コミ」が35.8%で最も多く、次いで「インターネット」が23.5%、「雑誌」が14.2%で続いている。

〔地域別〕

地域別で全体の傾向との相違は見られない。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られない。

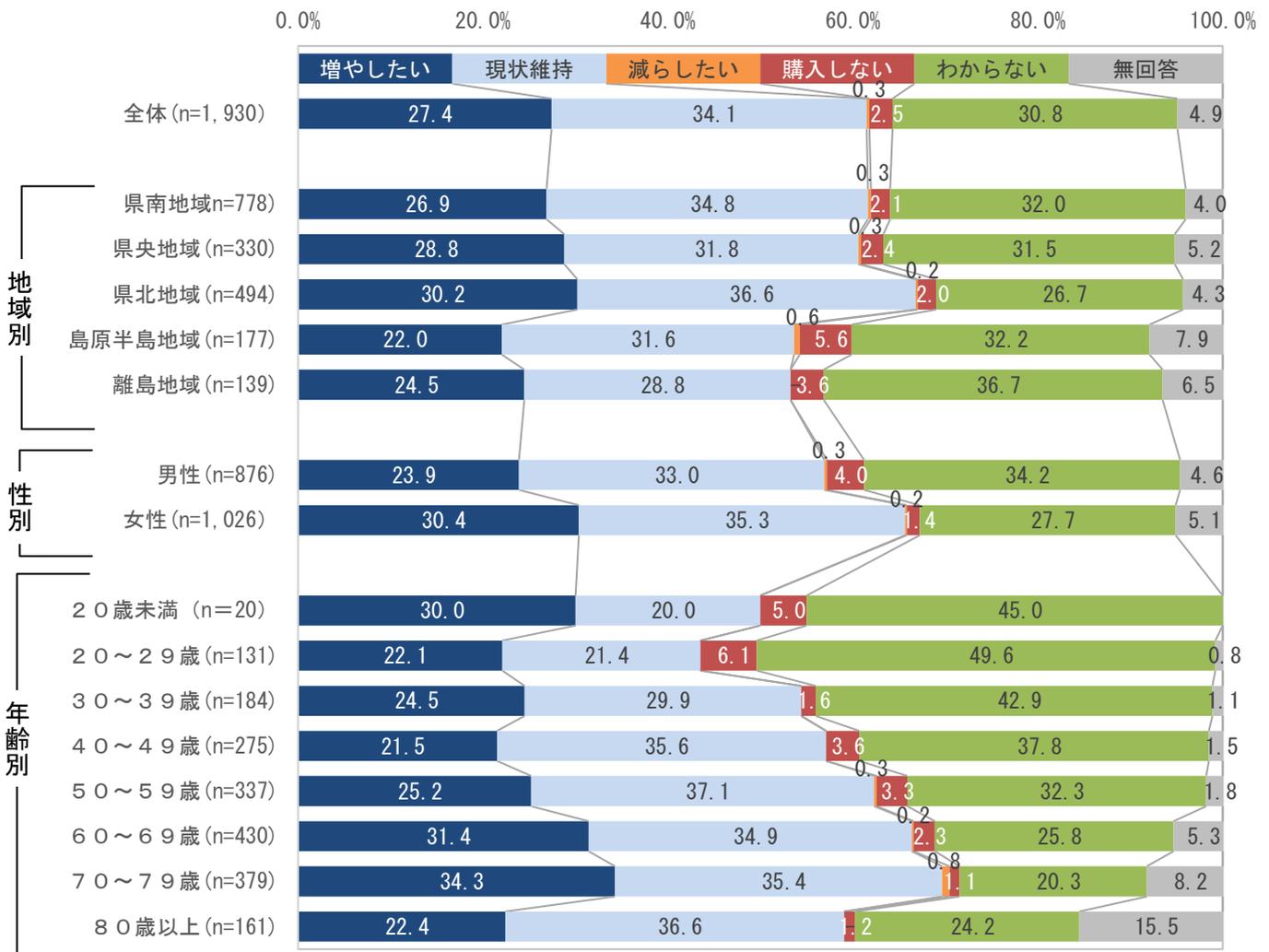
〔年齢別〕

年齢別では年齢の上昇とともに「口コミ」の割合が増加し、「インターネット」・「SNS」の割合は減少している。

あなたは、「有機農産物」の購入について、今後どのようにお考えですか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「現状維持」が3割強でトップ



[全体]

有機農産物の購入について、「現状維持」が34.1%で最も多く、次いで「わからない」が30.8%、「増やしたい」が27.4%の順で続いており、購入意向は（「増やしたい」+「現状維持」）は61.5%であった。

[地域別]

地域別では全体の傾向との相違は見られず、購入意向は「県北地域」が66.8%で最も高く、次いで「県南地域」が61.7%、「県央地域」が60.6%と続いている。

[性別]

性別でも全体の傾向との相違は見られず、購入意向は女性の方が8.8ポイント高くなっている。

[年齢別]

年齢別での購入意向は、「70歳代」が69.7%で最も多く、次いで「60歳代」が66.3%、「50歳代」が62.3%と続いている。

【県産品の利用について】

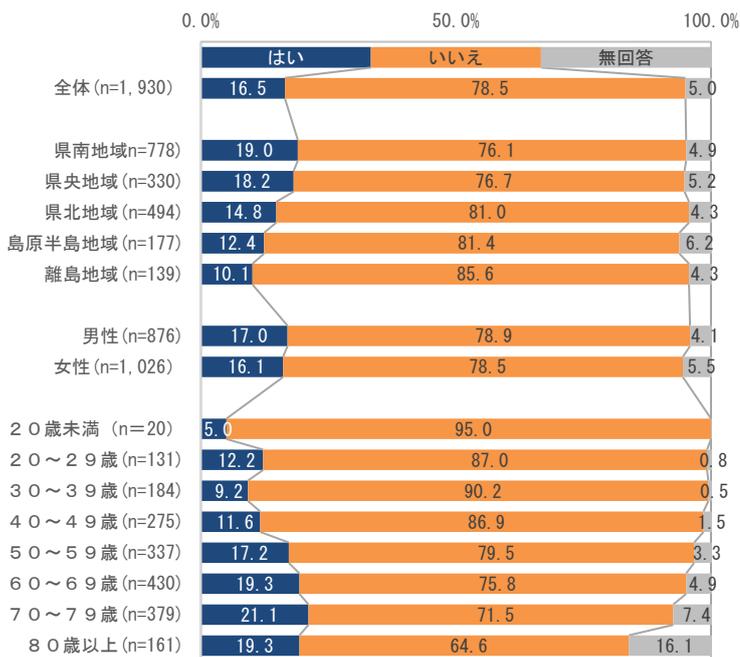
問 35

あなたは、長崎県ブランド農産加工品「長崎四季畑」認証制度をご存知ですか。
(〇は1つ)

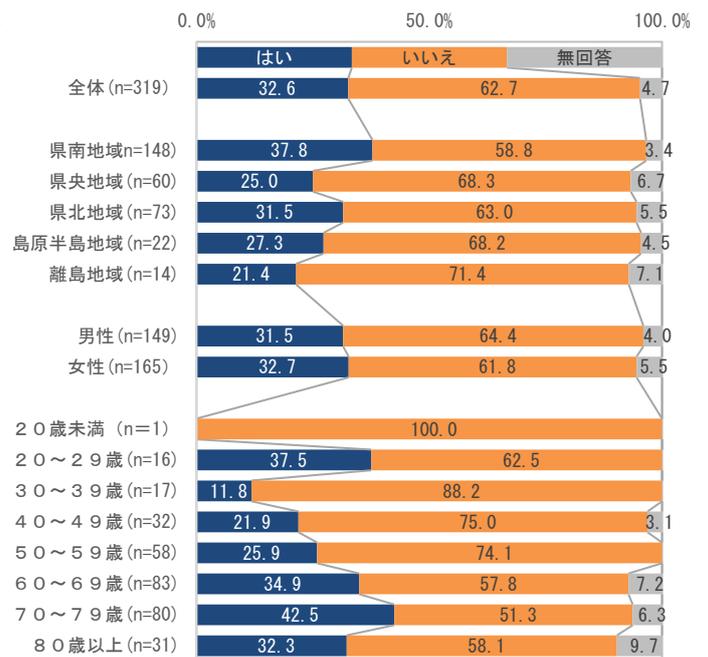
【調査結果 (ポイント)】

「長崎四季畑」の認知度は2割弱、認知者の購入割合は3割強、
買わない理由は「購入できるお店が分からない」が5割強でトップ

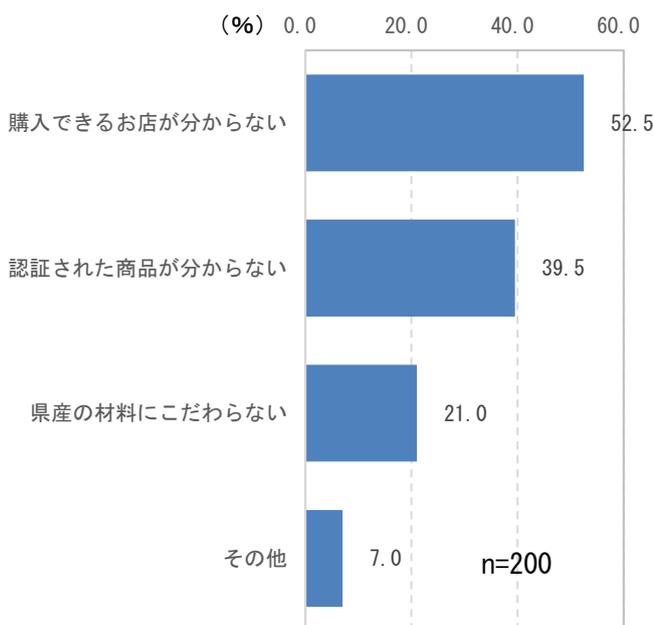
■認証制度を知っていますか



■購入したことはありますか



■購入しない理由



〔全体〕

長崎四季畑の認知度は16.5%、認知者のうち購入履歴があるものは32.6%、買わない理由は「購入できるお店が分からない」が52.5%で最も多く、次いで「認証された商品が分からない」が39.5%と続いている。

〔地域別〕

地域別での認知度は、「県南地域」が19.0%で最も高く、次いで「県央地域」が18.2%、「県北地域」が14.8%と続いている。

〔性別〕

性別では、認知度は男性の方が0.9ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

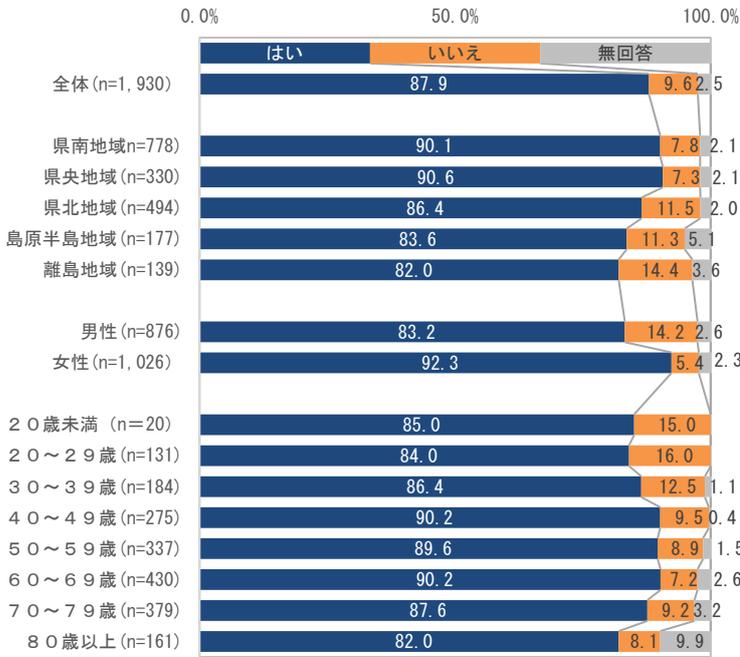
年齢別では年齢の上昇に伴い認知度は高くなっている。

あなたは、長崎県産米（ひのひかり・にこまる・つや姫・なつほのか）を知っていますか。
 (〇は1つ)

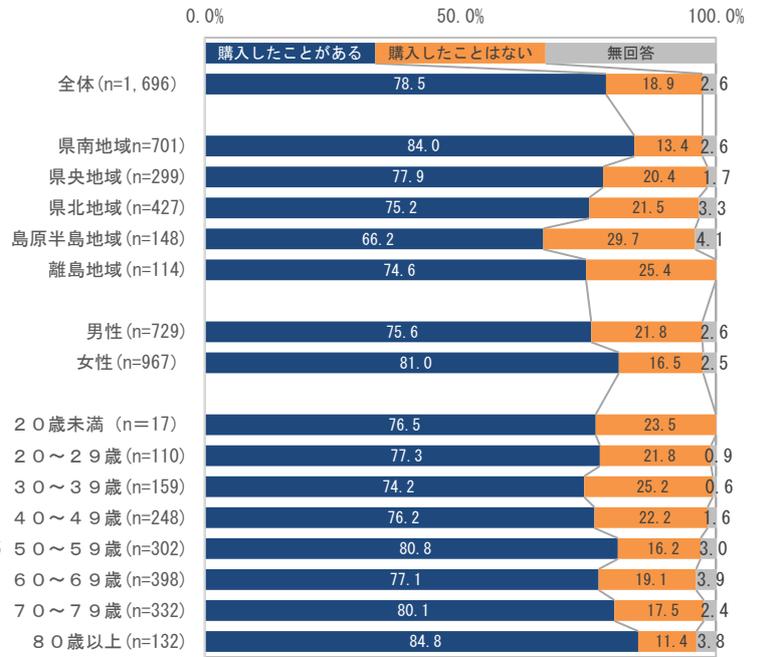
【調査結果 (ポイント)】

「長崎県産米」の認知度は9割弱、認知者の購入割合は8割弱、
 買わない理由は「他県産のものの方が美味しい」が1割強でトップ

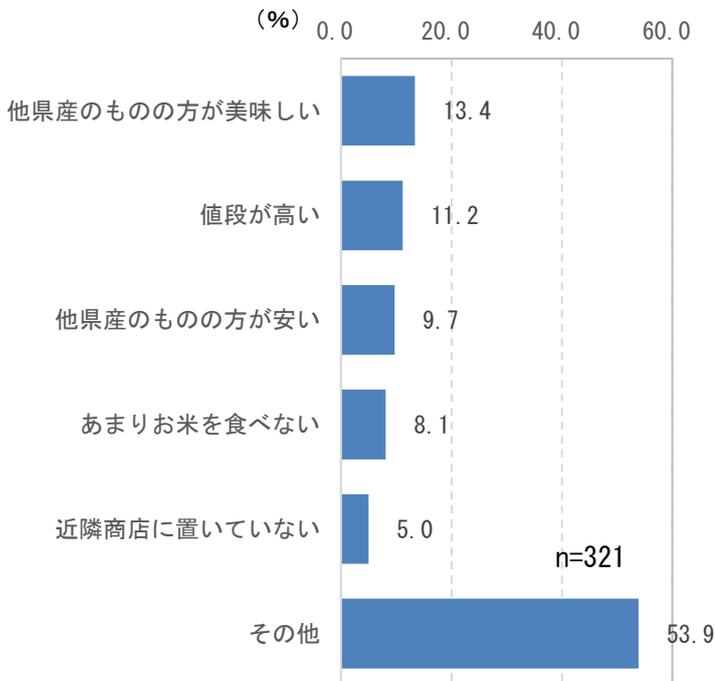
■長崎県産米を知っていますか



■購入したことはありますか



■購入しない理由



〔全体〕

長崎県産米の認知度は87.9%、認知者のうち購入履歴があるものは78.5%、購入したことがない理由は「他県産のものの方が美味しい」が13.4%で最も多く、次いで「値段が高い」が11.2%と続いている。また、「その他」が著しく多いがその内容は「米の自作や家族からもらう」等そもそも購入していないとの理由がほとんどであった。

〔地域別〕

地域別での認知度は、「県央地域」が90.6%で最も高く、次いで「県南地域」が90.1%、「県北地域」が86.4%と続いている。

〔性別〕

性別では、認知度は女性の方が9.1ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

年齢別では年齢の上昇に伴い認知度は高くなっており、「60歳代」を上限に減少している。